上峰町文化財調査報告書第37集

上峰町内遺跡確認調査Ⅴ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
―平成21年度～平成24年度―

2014年3月

上峰町教育委員会

上峰町文化財調査報告書第37集

上峰町内遺跡確認調査Ⅴ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
―平成21年度～平成24年度―

2014年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この20余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成26年3月

上峰町教育委員会
教育長　矢動丸　壽之

例　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡埋蔵文化財確認調査のうち平成21年度から平成24年度に実施した町内埋蔵文化財確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成25年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介が行った。
10. 本報告書に係る確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、各年度調査位置図・各年度実施確認調査一覧表・各年度の報文中の調査番号は一致する。

   例）平成21年度に3番目に実施した○○遺跡確認調査　　H21-3　○○遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 各年度の確認調査等の結果を受けて実施した本調査については、本調査実施年度の確認調査報告の節の後に、遺跡名と調査区番号を付して報告する。

   例）○○遺跡本調査　　○○遺跡○区発掘調査
5. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
6. 表中の数値に付した記号で、（　）は推定値を、※は部分値を表す。
7. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっているが、本書では、一部を除き、旧来の名称を使用している。

調 査 組 織

平成21年度

調査主体	上峰町教育委員会				
調査事務局	総括	八谷 日出夫	上峰町教育委員会	教育長（～平成21年4月30日）	
		鶴田 良弘	〃	教育長職務代理者（平成21年5月1日～平成21年9月30日）	
		吉田 茂	〃	教育長（平成21年10月1日～）	
	事務主任	鶴田 良弘	〃	教育次長（～平成21年4月30日・平成21年10月1日～）	
	経費執行	原田 大介	〃	文化課長	
調査組織	調査員	原田 大介	〃	文化課長	
調査指導		佐賀県教育委員会			

平成22年度

調査主体	上峰町教育委員会			
調査事務局	総括	吉田 茂	上峰町教育委員会	教育長
	事務主任	鶴田 良弘	〃	教育次長
	経費執行	原田 大介	〃	文化課長
調査組織	調査員	原田 大介	〃	文化課長
調査指導		佐賀県教育委員会		

平成23年度

調査主体	上峰町教育委員会			
調査事務局	総括	吉田 茂	上峰町教育委員会	教育長
	事務主任	原田 大介	〃	文化課長
	経費執行	原田 大介	〃	文化課長
調査組織	調査員	原田 大介	〃	文化課長
調査指導		佐賀県教育委員会		

平成24年度

調査主体	上峰町教育委員会			
調査事務局	総括	吉田 茂	上峰町教育委員会	教育長（～平成24年10月26日）
		矢動丸 壽之	上峰町教育委員会	教育長（平成24年10月27日～）
	事務主任	原田 大介	〃	文化課長
	経費執行	原田 大介	〃	文化課長
調査組織	調査員	原田 大介	〃	文化課長

発掘作業参加者

平成21年度

今村　次男・梅田美佐子・江島　福光・大庭　始・鬼塚　順子・上林　榮二・桑原　健・鳴山美千代・杉谷　勇・杉谷　嘉泰・副島小百合・鶴田　龍義・中山三千夫・西依　徹・濱　冨助・平野　末久・深堀　照美・松本ハル子・宮崎　正秋・山田富士夫・山本タツミ・吉岡　正道

平成22年度

秋山　俊彦・江副　愛子・大庭　始・上林　榮二・鳴山美千代・杉谷　勇・杉谷　嘉泰・濱　冨助・平野　末久・松本ハル子・宮崎　正秋・森田　安治・矢動丸松美

平成23年度

江副　愛子・大庭　始・鳴山美千代・杉谷　勇・杉谷　嘉泰・田中　清・寺田　友昭・濱　冨助・森田　安治・矢動丸松美・山田富士夫

江崎　愛子・島　美保子

平成24年度

江副　愛子・大庭　始・久保イサ子・鳴山美千代・田中　清・杉谷　勇・杉谷　嘉泰・濱　冨助・松永チサ子・宮崎　正秋・牟田　康孝・森田　安治・矢動丸松美・山田富士夫

島　美保子

整理作業参加者

島　美保子（平成25年度　整理作業員）

目　次

序
例言・凡例
調査組織・整理作業参加者

Ⅰ．上峰町の位置と環境……1
1．上峰町の位置……1
2．歴史的環境……1

Ⅱ．調査の概要……6
1．調査に至る経緯……6
2．調査の方法……6

Ⅲ．平成21年度の調査……9
H21-1　坊所二本谷遺跡(1)……12
H21-2　坊所二本谷遺跡(2)……13
H21-3　周知外　下坊所地区……14
H21-4　樫寺遺跡……15

Ⅳ．平成22年度の調査……17
H22-1　坊所五本谷遺跡(1)……21
H22-2　樫寺遺跡(1)……22
H22-3　三上遺跡(1)……23
H22-4　三上遺跡(2)……24
H22-5　樫寺遺跡(2)……25
H22-6　三上遺跡(3)……26
H22-7　樫寺遺跡(3)……27
H22-8　坊所五本谷遺跡(2)……28
H22-9　三上遺跡(4)……29
H22-10　周知外　寺家二地区……30
H22-11　三上遺跡(5)……31
H22-12　樫寺遺跡(4)……32
H22-13　大塚遺跡……33

Ⅴ．平成23年度の調査……35
H23-1　三上遺跡(1)……39
H23-2　三上遺跡(2)……40
H23-3　船石遺跡……41
H23-4　一本谷遺跡……42
H23-5　西前牟田遺跡……43
H23-6　三上遺跡(3)……44
H23-7　坊所三本松遺跡……45
H23-8　坊所五本谷遺跡……46

H23-9　杉寺遺跡 ……47
H23-10　外記遺跡 ……48
H23-11　樫寺遺跡 ……49
H23-12　三上遺跡(4) ……50
H23-13　三上遺跡(5) ……51
H23-14　三上遺跡(6) ……52
H23-15　西峰遺跡 ……53
H23-16　四本谷遺跡 ……54
船石遺跡 13 区発掘調査 ……57
西前牟田遺跡 3 区・4 区発掘調査 ……66

Ⅵ. 平成 24 年度の調査 ……79
H24-1　坊所五本谷遺跡 ……83
H24-2　三上遺跡(1) ……84
H24-3　三上遺跡(2) ……85
H24-4　四割八坂遺跡 ……86
H24-5　三上遺跡(3) ……87
H24-6　坊所三本松遺跡 ……88
H24-7　来多城跡 ……89
H24-8　周知外　寺家一地区 ……90
H24-9　三上遺跡(4) ……91
H24-10　周知外　屋形原地区 ……92
H24-11　一本谷遺跡 ……94
H24-12　三上遺跡(5) ……95
H24-13　三上遺跡(6) ……96
H24-14　船石遺跡 ……97
H24-15　杉寺遺跡 ……98
H24-16　周知外　江越地区 ……99
三上遺跡 7 区発掘調査 ……101

挿図目次

Fig. 1　上峰町町内遺跡及び周辺遺跡（1/50,000） ……2
2　上峰町遺跡地図（1/50,000） ……7
3　平成 21 年度　確認調査地位置図（1/50,000） ……11
4　H21-1　坊所二本谷遺跡(1)（1/5,000） ……12
5　H21-2　坊所二本谷遺跡(2)（1/5,000） ……13
6　H21-3　周知外　下坊所地区（1/5,000） ……14
7　H21-4　樫寺遺跡（1/5,000） ……15
8　平成 22 年度　確認調査地位置図（1/50,000） ……20
9　H22-1　坊所五本谷遺跡(1)（1/5,000） ……21

Fig. 10 H22-2 樫寺遺跡(1)（1/5,000）……22
11 H22-3 三上遺跡(1)（1/5,000）……23
12 H22-4 三上遺跡(2)（1/5,000）……24
13 H22-5 樫寺遺跡(2)（1/5,000）……25
14 H22-6 三上遺跡(3)（1/5,000）……26
15 H22-7 樫寺遺跡(3)（1/5,000）……27
16 H22-8 坊所五本谷遺跡(2)（1/5,000）……28
17 H22-9 三上遺跡(4)（1/5,000）……29
18 H22-10 周知外 寺家二地区（1/5,000）……30
19 H22-11 三上遺跡(5)（1/5,000）……31
20 H22-12 樫寺遺跡(4)（1/5,000）……32
21 H22-13 大塚遺跡（1/5,000）……33
22 平成23年度 確認調査地位置図（1/50,000）……38
23 H23-1 三上遺跡(1)（1/5,000）……39
24 H23-2 三上遺跡(2)（1/5,000）……40
25 H23-3 船石遺跡（1/5,000）……41
26 H23-4 一本谷遺跡（1/5,000）……42
27 H23-5 西前牟田遺跡（1/5,000）……43
28 H23-6 三上遺跡(3)（1/5,000）……44
29 H23-7 坊所三本松遺跡（1/5,000）……45
30 H23-8 坊所五本谷遺跡（1/5,000）……46
31 H23-9 杉寺遺跡（1/5,000）……47
32 H23-10 外記遺跡（1/5,000）……48
33 H23-11 樫寺遺跡（1/5,000）……49
34 H23-12 三上遺跡(4)（1/5,000）……50
35 H23-13 三上遺跡(5)（1/5,000）……51
36 H23-14 三上遺跡(6)（1/5,000）……52
37 H23-15 西峰遺跡（1/5,000）……53
38 H23-16 四本谷遺跡（1/5,000）……54
39 平成23年度 本調査地区位置図（1/50,000）……56
40 船石遺跡13区 調査区位置図（1/2,500）……57
41 船石遺跡13区 遺構配置図（1/200）……58
42 船石遺跡13区 遺構実測図……59
43 船石遺跡13区 遺物実測図（1/4）……60
44 西前牟田遺跡跡3区・4区 調査区位置図（1/2,500）……66
45 西前牟田遺跡跡3区・4区 遺構配置図（1/100）……67
46 西前牟田遺跡跡3区 遺構実測図……69

Fig. 47　西前牟田遺跡跡 4 区 遺構実測図……70
48　西前牟田遺跡跡 3 区 遺物実測図（1/4）……71
49　西前牟田遺跡跡 4 区 遺物実測図（1/4）……72
50　平成 24 年度　確認調査地位置図（1/50,000）……82
51　H24-1　坊所五本谷遺跡（1/5,000）……83
52　H24-2　三上遺跡(1)（1/5,000）……84
53　H24-3　三上遺跡(2)（1/5,000）……85
54　H24-4　四割八坂遺跡（1/5,000）……86
55　H24-5　三上遺跡(3)（1/5,000）……87
56　H24-6　坊所三本松遺跡（1/5,000）……88
57　H24-7　米多城跡（1/5,000）……89
58　H24-8　周知外 寺家一地区（1/5,000）……90
59　H24-9　三上遺跡(4)（1/5,000）……91
60　H24-10　周知外 屋形原地区（1/5,000）……92
61　H24-11　一本谷遺跡（1/5,000）……94
62　H24-12　三上遺跡(5)（1/5,000）……95
63　H24-13　三上遺跡(6)（1/5,000）……96
64　H24-14　船石遺跡（1/5,000）……97
65　H24-15　杉寺遺跡（1/5,000）……98
66　H24-16　周知外 江越地区（1/5,000）……99
67　平成 24 年度　本調査地区位置図（1/50,000）……100
68　三上遺跡 7 区 調査区位置図（1/2,500）……101
69　三上遺跡 7 区 遺構配置図（1/200）……102
70　三上遺跡 7 区 遺構実測図……103

表 目 次

Tab. 1　平成 21 年度　町内遺跡確認調査一覧表……10
2　平成 22 年度　町内遺跡確認調査一覧表……18
3　平成 23 年度　町内遺跡確認調査一覧表……36
4　平成 23 年度　町内遺跡本調査一覧表……55
5　船石遺跡 13 区　出土土壙等一覧表……58
6　西前牟田遺跡 3 区・4 区　出土土壙等一覧表……68
7　平成 24 年度　町内遺跡確認調査一覧表……80
8　三上遺跡 7 区　出土土壙等一覧表……102
報告書抄録

図版目次

PL. 1 H21-1 坊所二本谷遺跡(1) ……12
2 H21-2 坊所二本谷遺跡(2) ……13
3 H21-3 周知外 下坊所地区 ……14
4 H21-4 樫寺遺跡 ……15
5 H22-1 坊所五本谷遺跡(1) ……21
6 H22-2 樫寺遺跡(1) ……22
7 H22-3 三上遺跡(1) ……23
8 H22-4 三上遺跡(2) ……24
9 H22-5 樫寺遺跡(2) ……25
10 H22-6 三上遺跡(3) ……26
11 H22-7 樫寺遺跡(3) ……27
12 H22-8 坊所五本谷遺跡(2) ……28
13 H22-9 三上遺跡(4) ……29
14 H22-10 周知外 寺家二地区 ……30
15 H22-11 三上遺跡(5) ……31
16 H22-12 樫寺遺跡(4) ……32
17 H22-13 大塚遺跡 ……33
18 H23-1 三上遺跡(1) ……39
19 H23-2 三上遺跡(2) ……40
20 H23-3 船石遺跡 ……41
21 H23-4 一本谷遺跡 ……42
22 H23-5 西前牟田遺跡 ……43
23 H23-6 三上遺跡(3) ……44
24 H23-7 坊所三本松遺跡 ……45
25 H23-8 坊所五本谷遺跡 ……46
26 H23-9 杉寺遺跡 ……47
27 H23-10 外記遺跡 ……48
28 H23-11 樫寺遺跡 ……49
29 H23-12 三上遺跡(4) ……50
30 H23-13 三上遺跡(5) ……51
31 H23-14 三上遺跡(6) ……52
32 H23-15 西峰遺跡 ……53
33 H23-16 四本谷遺跡 ……54
34 船石遺跡 13 区 調査区遠景・調査区全景 ……61
35 船石遺跡 13 区 遺構検出状況 ……62

PL. 36 船石遺跡 13 区 遺構・遺物(1) ……63
37 船石遺跡 13 区 遺物(2) ……64
38 船石遺跡 13 区 遺物(3) ……65
39 西前牟田遺跡跡 3 区・4 区 調査区遠景・調査区近景 ……73
40 西前牟田遺跡跡 3 区・4 区 調査区全景 ……74
41 西前牟田遺跡跡 3 区・4 区 遺構(1) ……75
42 西前牟田遺跡跡 3 区・4 区 遺構(2)・遺物(1) ……76
43 西前牟田遺跡跡 3 区・4 区 遺物(2) ……77
44 西前牟田遺跡跡 3 区・4 区 遺物(3) ……78
45 H24-1 坊所五本谷遺跡 ……83
46 H24-2 三上遺跡(1) ……84
47 H24-3 三上遺跡(2) ……85
48 H24-4 四割八坂遺跡 ……86
49 H24-5 三上遺跡(3) ……87
50 H24-6 坊所三本松遺跡 ……88
51 H24-7 米多城跡 ……89
52 H24-8 周知外 寺家一地区 ……90
53 H24-9 三上遺跡(4) ……91
54 H24-10 周知外 屋形原地区 ……93
55 H24-10 周知外 屋形原地区 ……93
56 H24-11 一本谷遺跡 ……94
57 H24-12 三上遺跡(5) ……95
58 H24-13 三上遺跡(6) ……96
59 H24-14 船石遺跡 ……97
60 H24-15 杉寺遺跡 ……98
61 H24-16 周知外 江越地区 ……99
62 三上遺跡 7 区 調査区全景 ……104
63 三上遺跡 7 区 遺構 ……105

Ⅰ．上峰町の位置と環境

1．上峰町の位置（Fig. 1）

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する洪積世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する洪積世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に洪積世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する洪積世丘陵地域を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2．歴史的環境（Fig. 1）

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から洪積世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した島栖市安永田遺跡[1]、約400基の甕棺墓が検出された中原町姫方遺跡[2]、埋納された12本の銅矛を出土した北茂安町検見谷遺跡[3]、甕棺墓から舶載鏡を出土した神埼郡東脊振村三津永田遺跡[4]、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼郡の神埼・三田川・東脊振の2町1村に跨る吉野ケ里遺跡[5]など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める洪積世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である[6]。周辺地域では、神埼郡三田川町との境界に位置する二塚山丘陵の三田川町側からナイフ形石器の採取例が報告されている[7]。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4火砕流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良-Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」の表層を構成する黄褐色風

上峰町
1 鳥の宿古墳群
2 横西山山城
3 二本柳古墳群
4 横西山南麓古墳群
5 堤三本松遺跡
6 居原原古墳群
7 谷蔵古墳群
8 堤三本柳遺跡
9 青柳古墳群
10 新立古墳群
11 屋形原遺跡
12 堤六本谷遺跡
13 堤土居跡
14 八藤遺跡
15 二塁山遺跡
16 笠本谷遺跡
17 船石遺跡
18 船石南遺跡
19 切通遺跡
20 一本谷遺跡
21 坊所一本谷遺跡
22 上のびゃう原古墳
23 目達原古墳群
24 坊所城跡
25 榎寺遺跡
26 杉寺遺跡
27 坊所二本松遺跡
28 坊所三本松遺跡
29 琴の塚荒寺跡
30 西面牟田遺跡
31 米多城跡
32 前牟田城跡
33 和佐関遺集落跡
34 江迎城跡
35 一ノ橋遺遺集落跡
中原町
36 山田農骨器出土地
37 山田古墳群
38 大塚古墳
39 八幡社遺跡
40 貴原遺跡
41 屋方遺跡
42 前方前方墳円墳
43 前方原遺跡
44 ドンドン塚遺跡
45 町南遺跡
46 天神遺跡
47 西牟水遺跡
北茂安町
48 宝満谷遺跡
49 宝満富前方後円墳
50 大塚古墳
51 東尾鋼倒出土遺跡
三根町
52 本分貝塚
三川川町
53 吉野ヶ里五段遺跡群
54 下中杭遺跡
55 下鐙貝塚
神埼町
56 恵蔵屋六本松遺跡
57 伊勢塚前方後円墳
58 基肄遺跡
東脊振村
59 西石動古墳群
60 戦場ヶ谷遺跡
61 三津永田遺跡
62 西石動遺跡
63 松原遺跡
64 中上原寺跡
65 横田遺跡

Fig. 1　上峰町町内遺跡及び周辺遺跡（1/50,000）

積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている[8]。

縄文時代になると、中原町香田遺跡[9]や東脊振村戦場ヶ谷遺跡[10]などが出現する。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区[11]、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査[12]において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅剣や貝釧を出土した切通遺跡[13]、神埼郡東脊振村、三田川町に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型倣製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡[14]、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡[15]、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡[16]などが知られている。また、この度の県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡[17]、船石南遺跡[18]、八藤遺跡[19]から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期には中原町姫方原遺跡[20]、上峰町五本谷遺跡[21]などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀郡大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市剣塚古墳[22]、中原町姫方古墳[23]、上峰町西南部から神埼郡三田川町に跨る目達原古墳群[24]、神埼郡神埼町伊勢塚古墳[25]、佐賀市銚子塚古墳[26]、佐賀郡大和町船塚古墳[27]など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保 - 鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡・郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から神埼郡三田川町東部の一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓参考地「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稲荷塚、稲荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群[28]が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄剣、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳[29]が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、神埼郡三田川町下中杖遺跡[30]、同郡東脊振村下石動遺跡[31]などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、三田川町下中杖遺跡、東脊振村辛上廃寺跡[32]、霊仙寺跡[33]などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡[34]や塔の塚廃寺跡[35]などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設＝「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土塁の東方に接する八藤丘陵の調査において、土塁東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され[36]、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚廃寺跡は、百済系単弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡[37]の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた[38]。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡ともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している[39]。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

1) 藤瀬禎博・石橋新次　『柚比遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』　鳥栖市文化財調査報告書第30集　鳥栖市教育委員会　1980
2) 木下巧・天本洋一　『姫方遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第30集　佐賀県教育委員会　1974
3) 七田忠昭　『横見谷遺跡』　北茂安町文化財調査報告書第2集　北茂安町教育委員会　1986
4) 金関丈夫・坪井清足・金関恕　「佐賀県三津永田遺跡」『日本農耕文化の生成』　日本考古学協会　1961
5) 七田忠昭他　『吉野ヶ里』　佐賀県文化財調査報告書第113集　佐賀県教育委員会　1992
6) 原田大介　『八藤遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第16集　上峰町教育委員会　1999
7) 七田忠志　「原始」『上峰村史』　上峰村　1979
8) 下山正一・西田民雄　「Ⅱ．佐賀県上峰町周辺の地形と地質」『佐賀平野の阿蘇4火砕流と埋没林』　上峰町文化財調査報告書第11集　上峰町教育委員会　1994
9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋　「香田遺跡」『香田遺跡』　九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2　佐賀県文化

財調査報告書第57集　佐賀県教育委員会　1981
10) 七田忠志　「佐賀県戦場ケ谷遺跡」『史前学雑誌』　6－2・4　1934
11) 原田大介　『船石遺跡Ⅴ』　上峰町文化財調査報告書第12集　上峰町教育委員会　1995
12) 原田大介　『八藤遺跡Ⅱ・堤土塁跡Ⅱ』　上峰町文化財調査報告書第14集　上峰町教育委員会　1998
前出 (6)
13) 金関丈夫・金関恕・原口正三　「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』　日本考古学協会　1961
14) 高島忠平・七田忠昭他　「二塚山遺跡」『二塚山』　佐賀県文化財調査報告書第46集　佐賀県教育委員会　1979
15) 七田忠昭　『一本谷遺跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1983
16) 七田忠昭　『船石遺跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1983
17) 鶴田浩二・原田大介　『船石遺跡Ⅱ図録編』　上峰村文化財調査報告書第6集　上峰村教育委員会　1988
鶴田浩二・原田大介　『船石遺跡Ⅱ本文編』　上峰村文化財調査報告書第7集　上峰村教育委員会　1989
原田大介　『船石遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第8集　上峰町教育委員会　1990
原田大介　『船石遺跡Ⅳ』　上峰町文化財調査報告書第9集　上峰町教育委員会　1991
18) 原田大介　『船石南遺跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第21集　上峰町教育委員会　2002
原田大介　『船石南遺跡Ⅱ』　上峰町文化財調査報告書第22集　上峰町教育委員会　2002
19) 原田大介　『八藤遺跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第13集　上峰町教育委員会　1997
20) 木下巧他　『姫方原遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第33集　佐賀県教育委員会1976
21) 木下　巧・七田忠昭　「五本谷遺跡」『二塚山』　佐賀県文化財調査報告書第46集　佐賀県教育委員会　1979
22) 石橋新次　『剣塚前方後円墳』　島栖市文化財調査報告書第22集　島栖市教育委員会　1984
23) 前出 (2)
24) 松尾禎作　「目達原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』　第9輯　佐賀県教育委員会　1950
25) 木下之治　「古代国家の形成」『佐賀県史』佐賀県　1968
26) 木下之治編　『銚子塚』　佐賀市教育委員会1976
27) 松尾禎作　『佐賀県考古大観』　祐徳博物館　1959
28) 前出 (24)
29) 前出 (16)
30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己　『下中杖遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第54集　佐賀県教育委員会　1980
31) 高瀬哲郎他　「下石動遺跡」『下石動遺跡』　九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (6)　佐賀県文化財調査報告書第86集　佐賀県教育委員会　1987
32) 松尾禎作　「東脊振村辛上廃寺跡の調査」　『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯　佐賀県　1936
33) 田平徳栄他　『雲仙寺跡』　東脊振村文化財調査報告書第4集　東脊振村教育委員会　1980
34) 高島忠平・征一義　『堤土塁跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1978
35) 松尾禎作　「塔の塚廃寺址」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』　第7輯　佐賀県　1940
36) 前出 (12)
原田大介　『八藤遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第16集　上峰町教育委員会　1999
37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
38) 米倉二郎　「中世」『上峰村史』　上峰村　1979
39) 原田大介　『坊所城跡』　上峰町文化財調査報告書第10集　上峰町教育委員会　1992

Ⅱ．調査の概要

1．調査に至る経緯

上峰町教育員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るため開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

2．調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を採ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

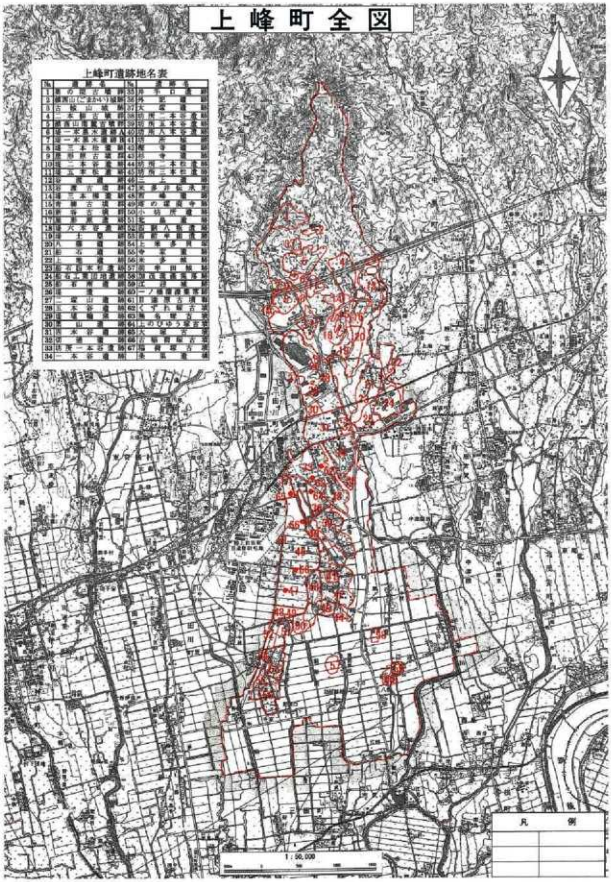


Fig. 2　上峰町遺跡地図（1/50,000）

Ⅲ．平成21年度の調査

Tab.1　平成21年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所二本谷遺跡(1)	上越町大字坊所字二本谷2495番地13, 2495番地25, 2495番地81, 2496番地4	個人	共同住宅及び店舗建設工事	1,662	64	平成21年6月11日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
2	坊所二本谷遺跡(2)	上越町大字坊所字二本谷2495番地10先	佐賀県	県道改良工事	107	10	平成21年11月4日	遺物・遺構は検出されなかった	工事実施中。	
3	周知外 下坊所地区	上越町大字坊所字下坊所1751番地1,1757番地2	個人	共同住宅建設工事	2,051	80	平成21年11月26日 平成21年11月27日	遺物・遺構は検出されなかった。	工事実施中。	
4	樫寺遺跡	上越町大字坊所字樫寺697番地	社会福祉法人美峰福祉会ひかり保育園	園舎増設工事	41	10	平成21年12月24日	中世のピットが検出された。	工事実施。	検出された遺構については、本調査を実施した。
				合　計	3,861	164				

Fig. 3　平成21年度　確認調査地位置図（1/50,000）

H21－1

遺跡名：坊所二本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：共同住宅及び店舗建設工事

工事面積：1,662㎡

調査面積：64㎡

調査時期：平成21年6月11日

Fig. 4　坊所二本谷遺跡(1)（1/5,000）

立地と環境：坊所二本谷遺跡は、町中央部の上峰町大字坊所字二本谷に所在する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡で、井手口丘陵の西側一帯に立地している。調査対象地区は、県道三田川北茂安線北側、井手口丘陵西側斜面の標高15m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL. 1　No.2試掘溝

H２１－２

遺跡名：坊所二本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：県道改良工事

工事面積：107㎡

調査面積：10㎡

調査時期：平成21年11月4日

Fig. 5　坊所二本谷遺跡(2)（1/5,000）

立地と環境：坊所二本谷遺跡は、町中央部の上峰町大字坊所字二本谷に所在する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡で、井手口丘陵の西側一帯に立地している。調査対象地区は、県道三田川北茂安線北側、井手口丘陵西側斜面の標高15m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL. 2　№1試掘溝

H21－3

遺跡名：周知外　下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：2,051㎡

調査面積：80㎡

調査時期：平成21年11月26日・27日

立地と環境：調査対象地区は上峰町大字坊所字下坊所に所在し、町中南部の坊所丘陵南東部の沖積地標高5m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

Fig. 6　周知外　下坊所地区（1/5,000）

PL. 3　調査区全景

H２１－４

遺跡名：樫寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字樫寺

工事内容：保育所園舎増築工事

工事面積：41㎡

調査面積：10㎡

調査時期：平成21年12月24日

立地と環境：樫寺遺跡は、上峰町大字坊所字樫寺に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、町中南部の現上坊所集落が占有する坊所丘陵に位置している。調査対象地区は坊所丘陵の中央部標高8m付近に位置しており、これまで保育所の園庭の一部として利用されてきた。

Fig. 7　樫寺遺跡（1/5,000）

遺構と遺物：中世のピットなどが検出された。

調査後措置：園舎増築部分について本調査を実施、本調査終了後、工事実施。

PL. 4　№1試掘溝　遺構検出状況

Ⅳ．平成22年度の調査

Tab.2 平成22年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所五本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字五本谷1864番地4の一部	個人	個人専用住宅建設工事	122	10	平成22年5月7日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
2	椛寺遺跡(1)	上峰町大字坊所字椛寺572番地13	個人	個人専用住宅建設工事	230	21	平成22年7月5日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
3	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字三上3172番地，3174番地2	個人	分譲宅地造成工事	1,187	170	平成22年7月29日 平成22年8月2日	奈良時代の溝跡、ピットなどが検出された。遺物は検出されなかった。	工事実施。	検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。
4	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字三上3117番地の一部	個人	個人専用住宅建設工事	490	40	平成22年10月1日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
5	椛寺遺跡(2)	上峰町大字坊所字椛寺572番地1	個人	個人専用住宅建設工事	343	30	平成22年8月18日	奈良時代の住居址1軒・溝跡・土壙などが検出された。住居址の覆土中に土師器小片が散見された。	工事実施。	基礎には杭打工法が採られていたが、遺構に与える影響が軽微であると判断。
6	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字西峰2980番地4	個人	個人専用住宅建設工事	415	20	平成22年8月31日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
7	椛寺遺跡(3)	上峰町大字坊所字椛寺572番地20	個人	個人専用住宅建設工事	270	20	平成22年10月1日	奈良時代の溝跡・土壙などが検出された。溝跡の覆土中に土師器小片が散見された。	工事実施。	基礎には杭打工法が採られていたが、遺構に与える影響が軽微であると判断。
8	坊所五本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字五本谷1823番地12	個人	個人専用住宅建設工事	324	30	平成22年10月15日	奈良時代の住居址・ピットなどが検出された。遺物は検出されなかった。	工事実施。	検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。
9	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字西峰2724番地	個人	共同住宅建設工事	987	90	平成22年11月16日	ピットなどが検出された。遺物は検出されなかった。	工事実施。	検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。
10	周知外 寺家二地区	上峰町大字前牟田字寺家二486番地2の一部	KDDI関福岡エンジニアリングセンター	携帯電話無線基地局建設工事	87	7	平成22年12月15日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	

11	三上遺跡(5)	上峰町大字前牟田字小坊所 1956番地91，1956番地92	個人	分譲宅地造成工事	833	50	平成22年12月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	開発主体者が重機提供。
12	醒寺遺跡(4)	上峰町大字坊所字醒寺 607番地1の一部	個人	個人専用住宅建設工事	171	14	平成23年1月21日	近世以降の溝跡2条が検出された。溝跡より近世、近代の陶磁器片が検出された。	工事実施。	基礎には杭打工法が採られていたが、遺構に与える影響が軽微であると判断。
13	大塚遺跡	上峰町大字坊所字大塚 1526番地4の一部，1527番地1， 1527番地5	鶴牛勝	共同住宅建設工事	990	90	平成23年2月25日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
				合　計	6,449	592				

Fig. 8　平成12年度　確認調査地位置図（1/50,000）

Ｈ２２－１

遺跡名：坊所五本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：122㎡

調査面積：10㎡

調査時期：平成22年5月7日

Fig. 9　坊所五本谷遺跡(1)（1/5,000）

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、町中南部、上峰町大字坊所字五本谷に所在し、町中西部の郡境地区から現下津毛集落付近に延びる下津毛丘陵南部に立地する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は下津毛丘陵の中南部標高12m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL. 5　No.1試掘溝

Ｈ２２－２

遺跡名：樫寺遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字樫寺

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：230㎡

調査面積：21㎡

調査時期：平成22年7月5日

立地と環境：樫寺遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字樫寺に所在し、現上坊所・下坊所集落が立地する坊所丘陵上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は坊所丘陵の北辺部、標高8m付近に位置しており、先年の宅地造成後、分譲された宅地の一区画にあたる。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

Fig.10　樫寺遺跡(1)（1/5,000）

PL. 6　作業状況

H２２－３

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,187㎡

調査面積：170㎡

調査時期：平成22年7月29日・8月2日

Fig.11　三上遺跡(1)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中北部東辺部、標高13m～15m付近に位置しており、一部は以前より宅地として、その他は畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代と推測される溝跡、ピットなどが検出された。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。

PL. 7　No.4試掘溝　遺構検出状況

Ｈ２２－４

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：490㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成22年10月1日

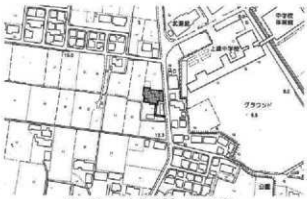


Fig.12　三上遺跡(2)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中北部東辺部、標高12m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL. 8　№2試掘溝

Ｈ２２－５

遺跡名：樫寺遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字樫寺

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：348㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成22年8月18日

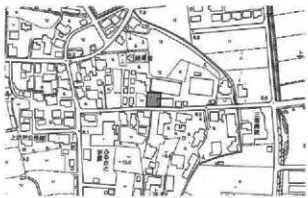


Fig.13　樫寺遺跡(2)（1/5,000）

立地と環境：樫寺遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字樫寺に所在し、現上坊所・下坊所集落が立地する坊所丘陵上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は坊所丘陵の北辺部、標高8m付近に位置しており、先年の宅地造成後、分譲された宅地の一区画にあたる。

遺構と遺物：奈良時代と推定される住居址、溝跡、土壙などが検出され、住居址覆土中に土師器小片が散見された。

調査後措置：基礎工法として杭打ち工法が採られていたが遺構に与える影響は軽微であると判断、工事実施。

PL. 9　№2試掘溝　遺構検出状況

Ｈ２２－６

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：415㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成22年8月31日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高12m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

Fig.14　三上遺跡(3)（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.10　作業状況

H２２－７

遺跡名：樫寺遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字樫寺

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：270㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成22年10月1日

Fig.15　樫寺遺跡(3)（1/5,000）

立地と環境：樫寺遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字樫寺に所在し、現上坊所・下坊所集落が立地する坊所丘陵上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は坊所丘陵の北辺部、標高8m付近に位置しており、先年の宅地造成後、分譲された宅地の一区画にあたる。

遺構と遺物：奈良時代と推定される溝跡、土壙などが検出され、溝跡覆土中に土師器小片が散見された。

調査後措置：基礎工法として杭打ち工法が採られていたが遺構に与える影響は軽微であると判断、工事実施。

PL.11　№2試掘溝　遺構検出状況

Ｈ２２－８

遺跡名：坊所五本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：324㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成22年10月15日

Fig.16　坊所五本谷遺跡(2)（1/5,000）

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、町中南部、上峰町大字坊所字五本谷に所在し、町中西部の郡境地区から現下津毛集落付近に延びる下津毛丘陵南部を立地する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は下津毛丘陵の中南部標高13m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代と推測される住居址、ピットなどが検出されが、遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。

PL.12　遺構検出状況

H22－9

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：987㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成22年11月16日

Fig.17　三上遺跡(4)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高13m付近に位置しており、盛土造成後の宅地として更地の状態であった。

遺構と遺物：時期不明のピットなどが検出されたが、遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。

PL.13　No.1試掘溝　遺構検出状況

H22－10

遺跡名：周知外　寺家二地区

調査地：上峰町大字前牟田字寺家二

工事内容：携帯電話無線基地局建設工事

工事面積：87㎡

調査面積：7㎡

調査時期：平成22年12月15日

立地と環境：調査対象地区は、本町南西部大字前牟田字寺家二に所在し、本町西部を南流する井柳川東岸の沖積地、標高4m付近に位置している。これまでは事業所の資材置場の一部として利用されていた。

Fig.18　周知外　寺家二地区（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.14　№1試掘溝

H22－11

遺跡名：三上遺跡(5)

調査地：上峰町大字前牟田字小坊所

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：833㎡

調査面積：50㎡

調査時期：平成22年12月20日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高11m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

Fig.19　三上遺跡(5)（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.15　№3試掘溝

H22－12

遺跡名：樫寺遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字樫寺

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：171㎡

調査面積：14㎡

調査時期：平成23年1月21日

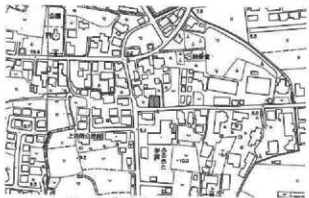


Fig.20　樫寺遺跡(4)（1/5,000）

立地と環境：樫寺遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字樫寺に所在し、現上坊所・下坊所集落が立地する坊所丘陵上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、坊所丘陵の北部、標高9m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：近世の溝跡などが検出され、溝跡より近世、近代の陶磁器片が出土した。

調査後措置：基礎工法として杭打ち工法が採られていたが遺構に与える影響は軽微であると判断、工事実施。

PL.16　No.1試掘溝　遺構検出状況

H22－13

遺 跡 名：大塚遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字大塚

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：990㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成23年2月25日

立地と環境：大塚遺跡は、町中部の上峰町大字坊所字大塚に所在し、本町と三田川町に跨る目達原丘陵の基部付近に位置する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落、墳墓遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の北部、標高20m付近に位置しており、一部は以前より宅地として、その他は畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

Fig.21　大塚遺跡（1/5,000）

PL.17　作業状況

V．平成23年度の調査

Tab.3 平成23年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字三上3274番地1, 3274番地5, 3274番地6,	個人	個人専用住宅建設工事	689	20	平成23年4月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	開発主体者が重機提供。
2	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰2938番地1, 2939番地1, 2940番地1, 2941番地1	(有)ランド開発	分譲宅地造成工事	1,897	60	平成23年5月18日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
3	船石遺跡	上峰町大字堤字三本杉733番地1	個人	個人専用住宅建設工事	590	60	平成23年5月25日 平成23年5月31日	奈良時代の住居址1軒、土壙、近世の埋め甕、ピットなどが検出された。土壙の覆土中から土師器片・須恵器片が出土した。	本調査後、工事実施。	開発主体者が重機提供。工事の影響が及ぶ部分、140㎡について記録保存を目的とした本調査を実施。
4	一本谷遺跡	上峰町大字坊所字一本谷2552番地1	(有)アーネストワン	分譲宅地造成工事	494	20	平成23年6月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
5	西前牟田遺跡	上峰町大字前牟田字北畠1773番地1, 1778番地2	個人	個人専用住宅建設工事	490	60	平成23年7月28日	弥生時代の住居址？1軒、中世の溝跡、土壙、ピットなどが検出された。住居址？、溝跡の覆土中に弥生式土器片、中世土器片が散見された。	本調査後、工事実施。	工事の影響が及ぶ部分、60㎡について記録保存を目的とした本調査を実施。
6	三上遺跡(3)	上峰町大字前牟田字小坊所1956番地93	悠悠ホーム(有)	分譲宅地造成工事	483	48	平成23年7月28日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
7	坊所三本松遺跡	上峰町大字坊所字三本松938番地1	個人	共同住宅建設工事	1,282	120	平成23年8月11日	弥生時代の甕棺墓2基、奈良時代の住居址1軒、中世の溝跡、土壙、ピットなどが検出された。甕棺の基底部を確認、中世溝跡の覆土中に中世土器片が散見された。	本調査後、工事実施。	工事の影響が及ぶ部分、300㎡について記録保存を目的とした本調査(受託事業)を実施。
8	坊所五本谷遺跡	上峰町大字坊所字五本谷2094番地1	個人	個人専用住宅建設工事	486	48	平成23年8月12日	奈良時代の住居址1軒、土壙、ピットなどが検出された。住居址の覆土中に土師器片が散見された。	工事実施。	検出された遺構については、基礎杭工法が採られていたが、遺構に与え

										る影響が軽微であると判断。またベタ基礎部分についても盛土により検出された遺構に工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。
9	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字西峰2780番地	個人	個人専用住宅建設工事	662	40	平成23年11月17日	奈良時代及び中世と考えられる溝跡、土壙、ピットなどが検出された。遺物は検出されなかった。	工事実施。	開発主体者が重機提供。検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。
10	外記遺跡	上峰町大字坊所字七本谷1560番地、1562番地4、1564番地1、1570番地155、1570番地156、1570番地195	佐賀丸善海陸運輸㈱	商業店舗建設工事	4,521	114	平成23年11月29日 平成23年11月30日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	開発主体者が重機提供。
11	榎寺遺跡	上峰町大字坊所字榎寺613番地1	(有)ベターライフ建築事務所	共同住宅建設工事	791	60	平成23年12月20日	弥生時代の住居址1軒、甕棺墓1基、土壙、ピットなどが検出された。住居址の覆土中に弥生式土器片が散見され、甕棺の基底部を確認した。	工事実施。	検出された遺構については、工事の影響が及ばないこと企確認し盛土保存。
12	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字西峰2932番地1	㈱シティ開発	分譲宅地造成工事	899	30	平成24年1月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
13	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字西峰2825番地1	㈱シティ開発	分譲宅地造成工事	941	30	平成24年1月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
14	三上遺跡(6)	上峰町大字坊所字西峰2968番地1	個人	資材置き場造成工事	990	70	平成24年1月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
15	西峰遺跡	上峰町大字坊所字西峰2902番地1	個人	個人専用住宅建設工事	937	78	平成24年1月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
16	四本谷遺跡	上峰町大字堤字西本谷1903番地330	個人	個人専用住宅建設工事	247	20	平成24年3月17日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手。	開発主体者が重機提供。
				合　計	16,399	878				

Fig.22　平成23年度　確認調査地位置図（1/50,000）

H２３－１

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：689㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成23年4月21日

Fig.23　三上遺跡(1)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中北部、標高16m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.18　№2試掘溝

H２３－２

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,897㎡

調査面積：60㎡

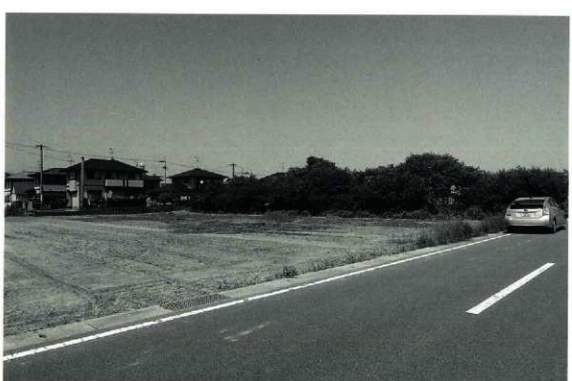
調査時期：平成23年5月18日

Fig.24　三上遺跡(2)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部、標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL.19　調査区全景

Ｈ２３－３

遺跡名：船石遺跡

調査地：上峰町大字堤字三本杉

工事内容：個人専用住宅工事

工事面積：590㎡

調査面積：60㎡

調査時期：平成23年5月25日・31日

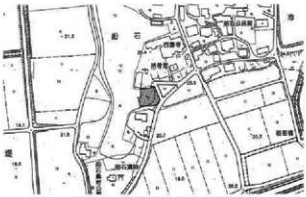


Fig.25　船石遺跡（1/5,000）

立地と環境：船石遺跡は、町北部の上峰町大字堤字三本杉・四本杉・一本谷・二本谷に所在し、現船石集落が立地する船石丘陵一帯に広がる縄文時代から中世に及ぶ集落・墳墓遺跡である。調査対象地区は、この船石丘陵の上位段丘中央部、標高24m付近に位置している。これまでは山林であった。

遺構と遺物：奈良時代の住居址、土壙、近世の土壙、埋め甕などが検出された。土壙の覆土中から土師器片、須恵器片、近世陶磁器片が出土した。

調査後措置：検出された遺構については、工事の影響が及ぶ部分140㎡を対象に本調査を実施。本調査後、工事実施。

PL.20　№2試掘溝　遺構検出状況

Ｈ２３－４

遺 跡 名：一本谷遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：494㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成23年6月8日

Fig.26　一本谷遺跡（1/5,000）

立地と環境：一本谷遺跡は、町中央部の井手口地区、上峰町坊所字一本谷に所在する縄文時代から古墳時代にかけての集落・墳墓遺跡で、町北部の大字堤地区の二塚山丘陵から国道34号線以南に派生する井手口丘陵上に立地している。調査対象地区は、井手口丘陵の標高24m付近に位置しており、すでに宅地として造成された更地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.21　№2試掘溝

H23－5

遺跡名：西前牟田遺跡

調査地：上峰町大字前牟田字北畠

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：490㎡

調査面積：60㎡

調査時期：平成23年7月28日

Fig.27　西前牟田遺跡（1/5,000）

立地と環境：西前牟田遺跡は、町南西部、上峰町大字前牟田字祇園町・七反田・北畠・一本杉・四割八坂に所在し、目達原丘陵南端部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、大字前牟田上米多地区を東西に走る県道神埼北茂安線南部の微高地、標高6m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代の住居址1軒、中世の溝跡、土壙、ピットなどが検出され、住居址覆土中に弥生式土器片が、溝跡覆土中には中世土器片が散見された。

調査後措置：検出された遺構については、工事の影響が及ぶ部分60㎡を対象に本調査を実施。本調査後、工事実施。

PL.22　№2試掘溝　遺構検出状況

Ｈ２３－６

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字前牟田字小坊所

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：483㎡

調査面積：48㎡

調査時期：平成23年7月28日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高13m付近に位置しており、すでに盛土造成されており繰種地であった。

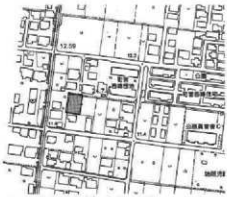


Fig.28　三上遺跡(3)（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.23　作業状況

H２３－７

遺跡名：坊所三本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三本松

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,282㎡

調査面積：120㎡

調査時期：平成23年8月11日

立地と環境：坊所三本松遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字三本松・西峰に所在し、現下坊所集落が立地する坊所丘陵南部及び西方の目達原丘陵東辺部に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、坊所丘陵の南端部、標高8m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

Fig.29　坊所三本松遺跡（1/5,000）

遺構と遺物：弥生時代の甕棺墓2基、奈良時代の住居址1軒、中世の溝跡、土壙、ピットなどが検出され、甕棺墓に使用された甕棺の基底部を確認したほか中世溝跡の覆土中に中世土器片が散見された。

調査後措置：検出された遺構については、工事の影響が及ぶ部分300㎡を対象に本調査を実施。本調査後、工事実施。

PL.24　№3試掘溝　遺構検出状況

H23－8

遺 跡 名：坊所五本谷遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：486㎡

調査面積：48㎡

調査時期：平成23年8月12日

Fig.30　坊所五本谷遺跡（1/5,000）

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、町中南部、上峰町大字坊所字五本谷に所在し、町中西部の郡境地区から現下津毛集落付近に延びる下津毛丘陵南部を立地する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は下津毛丘陵の中南部標高12m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址1軒、土壙、ピットなどが検出され、住居址覆土中に土師器片が散見された。

調査後措置：基礎工法として杭打ち工法が採られていたが遺構に与える影響は軽微であると判断、またベタ基礎部分についても盛土保存。工事実施。

PL.25　No.2試掘溝　遺構検出状況

H２３－９

遺 跡 名：杉寺遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：662㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成23年11月17日

Fig.31　杉寺遺跡（1/5,000）

立地と環境：杉寺遺跡は、上峰町大字坊所字杉寺・西峰に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、町中南部の現上坊所・下坊所の集落が立地する坊所丘陵の西辺部から三上地区に広がる目達原丘陵東辺部に跨って位置している。調査対象地区は、杉寺遺跡のうち目達原丘陵側の丘陵斜面、標高10m付近に位置しており、一部は宅地として既に造成されておりその他の部分は畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代及び中世と推測される溝跡、土壙、ピットなどが検出された。遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。

PL.26　№2試掘溝　遺構検出状況

H23－10

遺 跡 名：外記遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：店舗建設工事

工事面積：4,521㎡

調査面積：114㎡

調査時期：平成23年11月29日・30日

立地と環境：外記遺跡は上峰町大字坊所字二本谷・七本谷に所在する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落・墳墓遺跡で、町中央部郡境地区の目達原丘陵から下津毛地区へ延びる下津毛丘陵の基部一帯に広がりをもつ。調査対象地区は、外記溜池東岸の丘陵斜面、標高20m付近に位置しており、これまで運送会社のトラックヤードとして利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

Fig.32　外記遺跡（1/5,000）

PL.27　調査区全景

H２３－１１

遺跡名：樫寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字樫寺

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：791㎡

調査面積：60㎡

調査時期：平成23年12月20日

Fig.33　樫寺遺跡（1/5,000）

立地と環境：樫寺遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字樫寺に所在し、現上坊所・下坊所集落が立地する坊所丘陵上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、坊所丘陵の北部、標高9m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代の住居址1軒、甕棺墓1基、土壙、ピットなどが検出され、住居址覆土中に弥生式土器片が散見され、甕棺墓に使用された甕棺の基底部を確認した。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存。工事実施。

PL.28　№2試掘溝　遺構検出状況

H23－12

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：899㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成24年1月12日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部、標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

Fig.34　三上遺跡(4)（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.29　№1試掘溝

H２３－１３

遺跡名：三上遺跡(5)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：941㎡

調査面積：30㎡

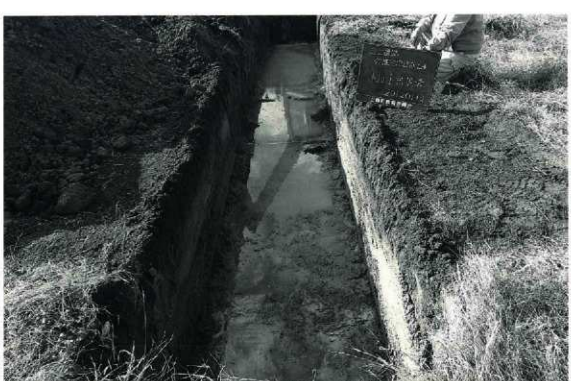
調査時期：平成24年1月12日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部、標高10m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

Fig.35　三上遺跡(5)（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL.30　No.1試掘溝

H23－14

遺跡名：三上遺跡(6)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：資材置き場造成工事

工事面積：990㎡

調査面積：70㎡

調査時期：平成24年1月13日

Fig.36　三上遺跡(6)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高10m付近に位置しており、これまでは畑として利用されていたが、調査時は工事残土、建設資材の仮置き場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.31　№1試掘溝

H２３－１５

遺 跡 名：西峰遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：937㎡

調査面積：78㎡

調査時期：平成24年1月13日

Fig.37　西峰遺跡（1/5,000）

立地と環境：西峰遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵南部に位置する弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。三上遺跡や西峰遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高10m付近に位置しており、これまでは畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.32　作業状況

H23－16

遺 跡 名：四本谷遺跡

調 査 地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：247㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成24年3月17日

立地と環境：四本谷遺跡は、上峰町大字堤字四本谷に所在する弥生時代の墳墓遺跡で、町中北部の二塚山丘陵の南部に立地している。調査対象地区は二塚山丘陵南部、国道34号線北側、標高23m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

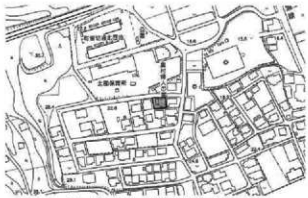


Fig.38　四本谷遺跡（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.33　№1試掘溝

Tab.4 平成23年度 町内遺跡本調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	調査結果	調査後の措置	備考
1	船石遺跡13区	上峰町大字堤字三本杉 733番地1の一部	個人	個人専用住宅建設工事	590	140	平成23年6月1日 ～ 平成23年6月3日	奈良時代の住居址1軒、奈良時代から近世にかけての土壙7基、近世の埋め甕等が検出され、それらの遺構から土師器片・須恵器片・中世土器片・中世陶磁器片・近世陶磁器片・近世瓶製品等が出土した。	本調査後、工事実施。	開発主体者が重機提供。
2	西前牟田遺跡3区	上峰町大字前牟田字北畠 1773番地1の一部	個人	個人専用住宅建設工事	490	60	平成23年9月22日 ～ 平成23年10月7日	古墳時代から中世に及ぶ土壙約20基、中世、近世の溝跡2条等が検出され、それらの遺構から土師器片・須恵器片・中世土器片・中世陶磁器片・近世陶磁器片等が出土した。	本調査後、工事実施。	
3	西前牟田遺跡4区	上峰町大字前牟田字北畠 1779番地1の一部	個人	個人農地改修工事	30	30	平成24年2月15日 ～ 平成24年3月11日	奈良時代の住居址と推定される遺構2基、古墳時代から中世に及ぶ土壙約15基、中世、近世の溝跡2条等が検出され、それらの遺構から土師器片・須恵器片・中世土器片・中世陶磁器片・近世陶磁器片等が出土した。	本調査後、工事実施。	
				合計	1,110	230				

Fig.39　平成23年度　本調査地位置図（1/50,000）

船石遺跡13区発掘調査（Fig.39～43・PL.34～38）

遺 跡 名：船石遺跡13区
調 査 地：上峰町大字堤字三本杉733番地1の一部
調査原因：個人専用住宅建設工事
調査面積：140㎡
調査時期：平成23年6月1日～3日

船石遺跡は、町北部の大字堤字三本杉・四本杉・一本谷・二本谷に所在し、中原町高柳付近から本町切通地区北部へ派生する船石丘陵一帯に広がりをもつ弥生時代の集落・墳墓跡を主体とした縄文時代から中世に及ぶ複合遺跡である。

5月25日、31日に実施した船石遺跡における確認調査において遺構、遺物が検出されたことを受け、住宅基礎工事の影響が及ぶ範囲140㎡について記録保存を目的とした本調査を実施した。

その結果、奈良時代の住居址1軒、奈良時代から近世にかけての土壙3基、近世の埋め甕等を調査した。それらの遺構から土師器片・須恵器片・中世土器片・中世陶磁器片・近世陶磁器片・近世銅製品等がコンテナボックス2箱分出土した。

今回の調査では弥生時代の遺構、遺物は検出されなかったが、奈良時代以降の遺構、遺物が検出され、遺跡の時代的な変遷を考える上で貴重な資料を得ることができた。

遺 構（Fig.41，42・PL.34～36）

住居址（Fig.41，42）

SH-1301は、調査区南西部で検出された奈良時代の竪穴式住居址。方形住居址の北西隅部分と推測される壁を確認した。規模は確認部分で東西1.8m、南北1m、深さ0.07m、主軸は推定でN－15.5°－W。

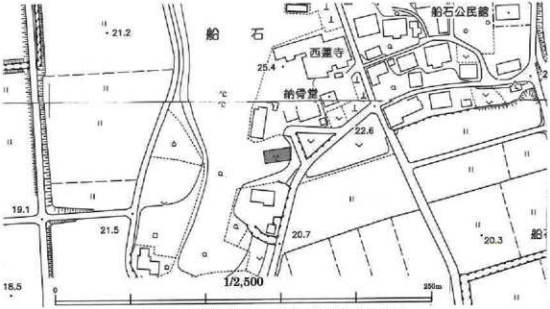


Fig.40 船石遺跡13区 調査区位置図（1/2,500）

土壙・その他（Fig.41，42・PL.36）

SX-1302は、近世の埋め甕。円形の掘り方の中に陶器甕の底部が遺存している。甕内底部より銅製飾り金具が出土。SK-1304は奈良時代、SK-1303・SK-1305・SK-1306は近世の所産。

Tab. 5　船石遺跡13区　出土土壙等一覧表

遺構番号	平面形態	規模（上段…上面・下段…底面）単位：m・㎡ 長さ・長径	幅・短径	深さ	底面積	出土遺物	備考
SX-1302	円形	0.60 0.25	0.60 0.23	0.16	0.04	陶器甕、銅製金具	近世
SK-1303	不整形	4.60 4.30	3.60 2.90	0.27	8.2	土鍋、陶磁器	近世
SK-1304	不整楕円形	3.60 2.10	2.28 1.38	0.34	2.8	須恵器坏、土師器坏・甕他	奈良時代
SK-1305	不整楕円形	2.74 2.62	1.74 1.55	0.09	3.5	陶磁器	近世
SK-1306	不整円形					陶磁器	近世　一部発掘

遺　物（Fig.43・PL.36～38）

SX-1302出土遺物（PL.38）

青銅製飾り金具。埋め甕の内部から出土した。五弁花様の梅型を呈す銅板、直径3.2cm、中心に径5mmの穿孔。

SK-1303出土遺物（PL.38）

中世土鍋片や近世の陶磁器類が出土している。

SK-1304出土遺物（Fig.43・PL.36～38）

1は土師器の甑。2～5は土師器甕。6、7は須恵器坏蓋。8、12は須恵器皿。9、10、13は須恵器高台坏。11は土師器坏。

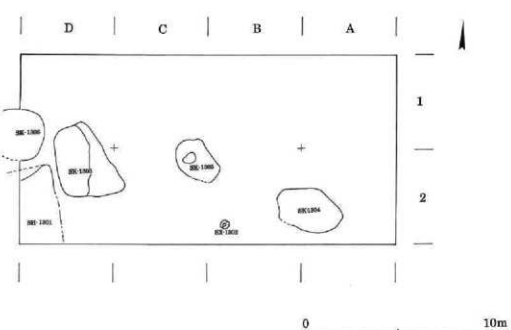


Fig.41　船石遺跡13区　遺構配置図（1/200）

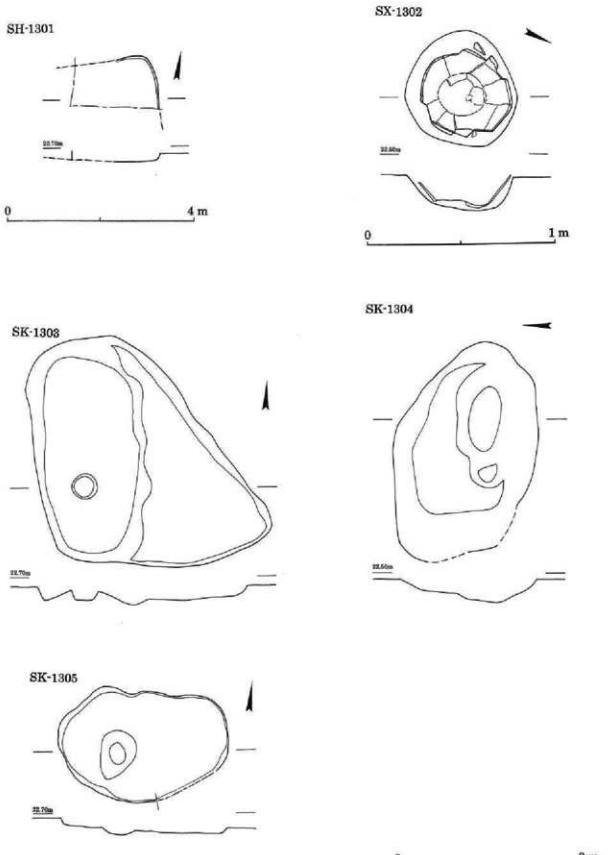


Fig.42　船石遺跡13区　遺構実測図

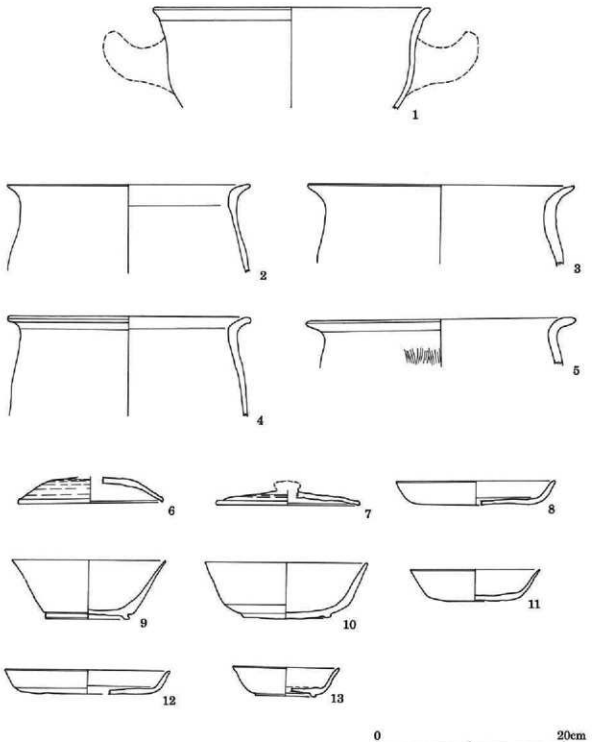
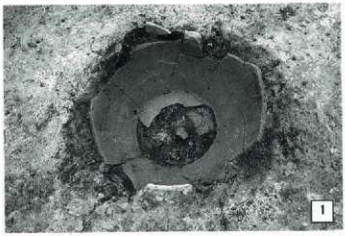


Fig.43　船石遺跡13区　遺物実測図

1　船石遺跡 13 区　調査区遠景　―東南より―

2　船石遺跡 13 区　調査区全景　―東より―

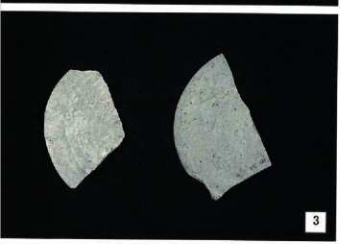
1　船石遺跡 13 区　遺構検出状況　―西より―

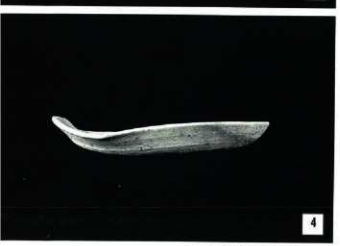


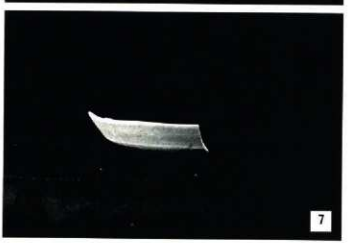
1 SX-1302 —東より—
2 SK-1303 —北より—
3 SK-1304 —北東より—
4 SK-1304 —北東より—

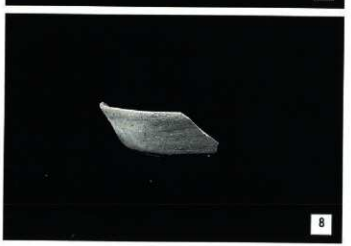
5 SK-1305 —西より—
6 1 SK-1304 出土
7 2 SK-1304 出土
8 3 SK-1304 出土

PL. 37

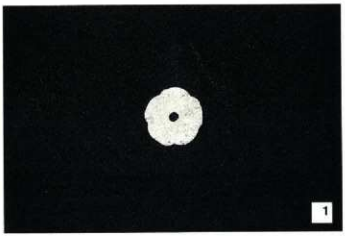


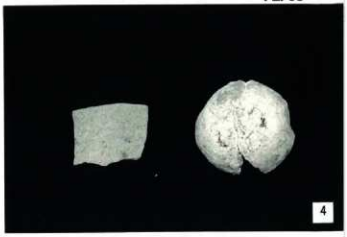


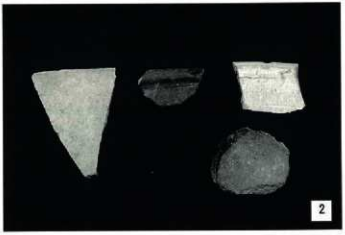


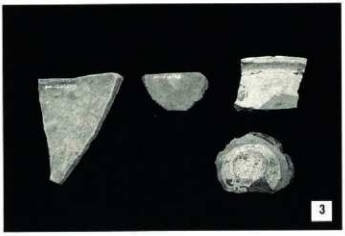


1　4　SK-1304 出土
2　5　SK-1304 出土
3　6・7　SK-1304 出土
4　8　SK-1304 出土
5　9　SK-1304 出土
6　10　SK-1304 出土
7　12　SK-1304 出土
8　13　SK-1304 出土









1 SX-1302 出土　銅製品
2 SK-1303 出土　土鍋・陶器
3 同上

4 SK-1304 出土　土師器坏・土鈴
5 同上
6 SK-1306 出土　陶磁器類

西前牟田遺跡3区・4区発掘調査（Fig.44～49・PL.39～44）

遺 跡 名：西前牟田遺跡3区・4区
調 査 地：3区　上峰町大字前牟田字北畠1773番地1の一部
　　4区　上峰町大字前牟田字北畠1779番地1の一部
調査原因：3区　個人専用住宅建設工事
　　4区　農地改修工事
調査面積：3区　60㎡
　　4区　30㎡
調査時期：3区　平成23年9月22日～10月7日
　　4区　平成24年2月15日～3月11日

西前牟田遺跡は、町南西部、上峰町大字前牟田字祇園町・七反田・北畠・一本杉・四割八坂に所在し、本町中西部の郡境地区付近から大字前牟田下米多地区付近へ延びる目達原丘陵南端部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、3区・4区ともに大字前牟田上米多地区を東西に走る県道神埼北茂安線南部の微高地、標高6m付近に位置している。

3区の調査は、7月28日に実施した西前牟田遺跡における確認調査において遺構・遺物が検出されたことを受け、個人専用住宅建設に伴う乗入れ口のスロープ設置工事の影響が及ぶ範囲60㎡について記録保存を目的とした本調査を実施した。

その結果、古墳時代から中世に及ぶ土壙約7基、中世、近世の溝跡3条などが検出され、それらの遺構から土師器片・須恵器片・中世土器片・中世陶磁器片・近世陶磁器片等がコンテナボックス2箱分出土した。

4区の調査は、9月から10月にかけて実施した西前牟田遺跡3区の調査においてかなりの密度で遺構・遺物が検出されたことを受け、3区本調査対象範囲の西側に隣接する部分において計画された個人農地乗入れ口改修工事に

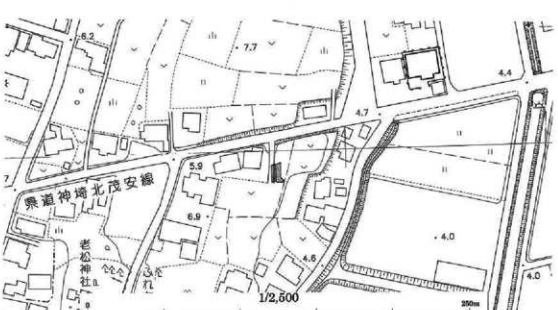


Fig.44　西前牟田遺跡3区・4区　調査区位置図（1/2,500）

伴い、工事対象範囲にも西前牟田遺跡3区と同様の遺構・遺物が存在することが確実視されたため確認調査を経ず、農地への乗入れ口のスロープ改修工事の影響が及ぶ範囲30㎡について記録保存を目的とした本調査を実施した。

その結果、4区においても古墳時代の住居址と推定される遺構1基、古墳時代から中世に及ぶ土壙7基、中世、近世の溝跡2条等が検出され、それらの遺構から土師器片・須恵器片・中世土器片・中世陶磁器片・近世陶磁器片等がコンテナボックス4箱分出土した。

今回の調査は、3区が60㎡、4区が30㎡という狭小な範囲についての発掘調査であったため遺跡全体の性格には言及できないが、予想以上の密度で古墳時代から近世に及ぶ遺構、遺物が検出され、これまで調査例が少なかった前牟田地区の遺跡のあり方を考える上で貴重な資料を得ることができた。

3区・4区の遺構

住居址（Fig.45，47・PL.42）

SH-401は、4区調査区南部で検出された古墳時代の竪穴式住居址。方形住居址の北西隅部分と推測される壁を確認した。規模は確認部分で東西2.6m、南北2.5m、深さ0.08m、主軸は推定でN－7°－E。

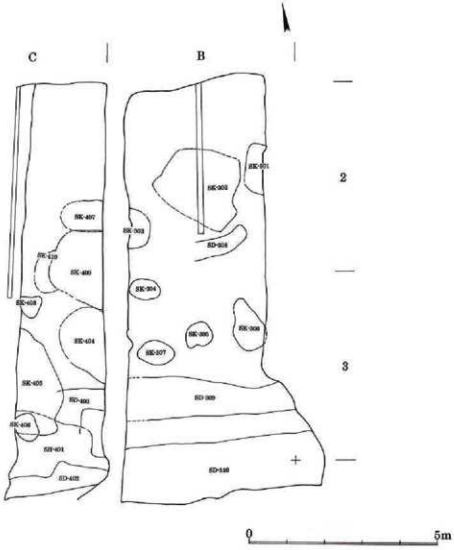


Fig.45　西前牟田遺跡3区・4区　遺構配置図（1/100）

土壙（Fig.45～47・PL.41，42）

土壙は、3区7基、4区7基、合計14基を調査した。出土遺物などから、3区ではSK-305・SK-307が古墳時代後期、SK-301・SK-302が奈良時代、4区では、SK-405・SK-406が古墳時代後期、SK-410が奈良時代、SK-404が中世の所産と考えられる。

Tab. 6　西前牟田遺跡3区・4区　出土土壙等一覧表

遺構番号	平面形態	規模（上段…上面・下段…底面）単位：m・㎡				出土遺物	備考
		長さ・長径	幅・短径	深さ	底面積		
SK-301	方形	1.26 1.10	※0.50 ※0.42	0.12	※0.4	須恵器高台坏	奈良時代
SK-302	不整形	2.00 1.66	(2.1) (1.9)	0.25	(2.9)	須恵器坏・坏蓋・甕・長頸壺	奈良時代
SK-303	円形	(1.0) (0.9)	※0.50 ※0.42	0.17	※0.4		
SK-304	不整楕円形	(0.9) (0.7)	0.58 0.46	0.11	(0.3)		
SK-305	不整円形	0.76 0.34	0.64 0.32	0.14	0.09	須恵器高坏	古墳時代後期
SK-306	不整楕円形	1.42 1.16	0.88 0.70	0.06	0.5		
SK-307	不整楕円形	1.00 0.54	0.66 0.26	0.20	0.1	須恵器坏蓋	古墳時代後期
SK-404	楕円形	1.64 1.24	※1.20 ※1.10	0.18	※1.4	須恵器坏蓋、土師	中世
SK-405	不整形	2.84 2.60	※1.30 ※1.20	0.50	※2.5	須恵器坏	古墳時代後期
SK-406	不整方形	0.86 0.48	0.56 0.38	0.58	0.1	須恵器坏蓋・甕、土師器高坏・甕	古墳時代後期
SK-407	不整楕円形	※1.10 ※1.04	(0.8) (0.7)	0.10	※0.7		
SK-408	不整形	(0.7) (0.6)	0.60 0.50	0.25	(0.2)		
SK-409	不整方形	2.16 1.46	※1.40 ※1.30	0.28	※2.2		
SK-410	不整方形	1.08 0.88	※0.60 ※0.50	0.20	※0.4	須恵器高台坏・坏蓋・甕	奈良時代

溝　跡（Fig.45～47・PL. 41，42）

溝跡は、3区3条、4区2条を調査した。SD-309とSD-403、SD-310とSD-402はそれぞれ一連の溝跡の可能性が高い。

遺　物（Fig.48，49・PL.42～44）

SK-301出土遺物（Fig.48・PL.42）

1は須恵器高台坏。

SK-302出土遺物（Fig.48・PL.42，43）

2・3は須恵器坏。2は高台をもつ。4は須恵器坏蓋。5は須恵器甕。6は須恵器長頸壺の胴部。

SK-305出土遺物（Fig.48・PL.43）

7は須恵器高坏。8は須恵器坏蓋。

SK-307出土遺物（Fig.48・PL.43）

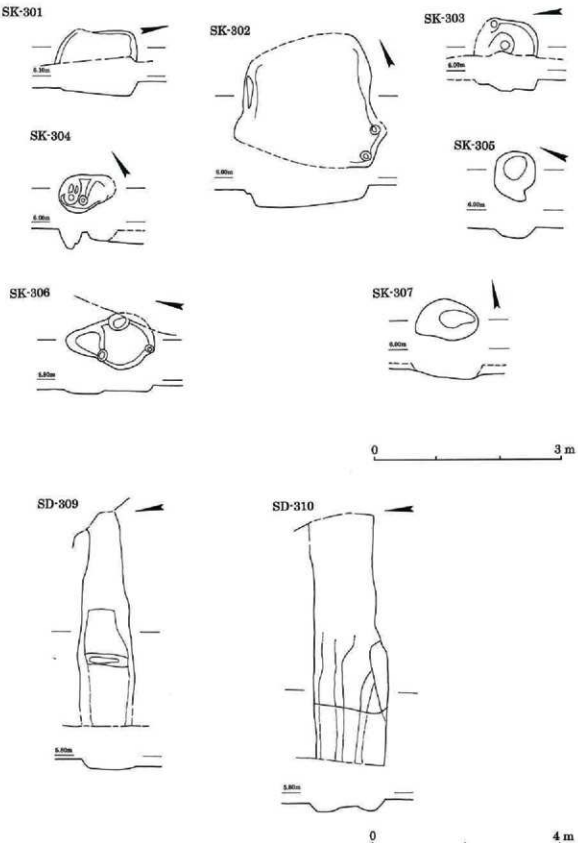


Fig.46　西前牟田遺跡3区　遺構実測図

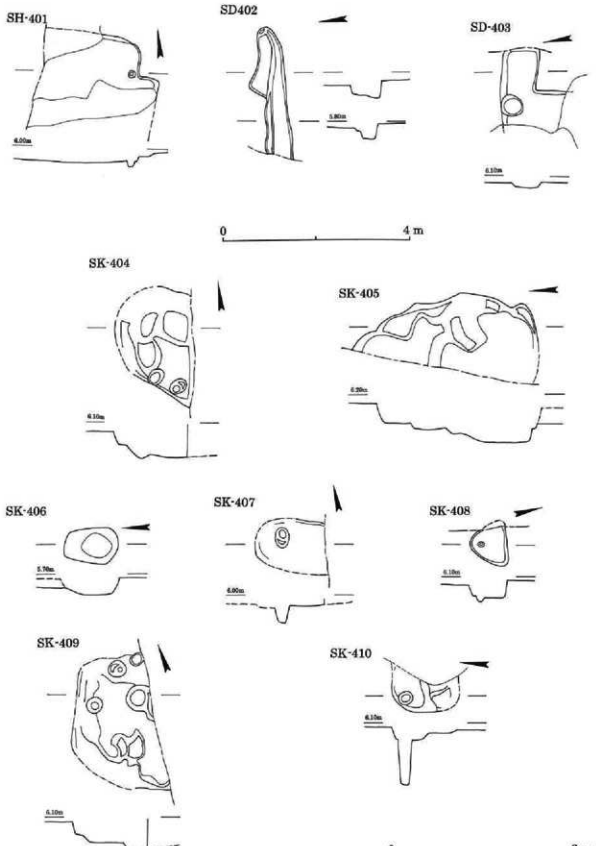


Fig.47　西前牟田遺跡4区　遺構実測図

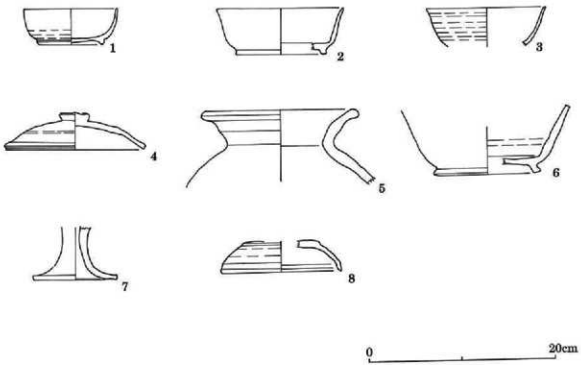


Fig.48　西前牟田遺跡3区　遺物実測図

8は須恵器坏蓋。

SH-401出土遺物（Fig.49・PL.43）

1は須恵器甕。2は須恵器坏

SD-402出土遺物（Fig.49・PL.43）

3は須恵器坏蓋。

SK-404出土遺物（Fig.49・PL.43）

4、6は中世の土鍋。5は須恵器坏蓋。

SK-405出土遺物（Fig.49・PL.43，44）

7、8は須恵器坏。

SK-406出土遺物（Fig.49・PL.44）

9は須恵器坏蓋。10は土師器甕。11は須恵器甕。12は土師器高坏。

SK-410出土遺物（Fig.49・PL.44）

13は須恵器甕。14は須恵器高台坏。15は須恵器坏蓋

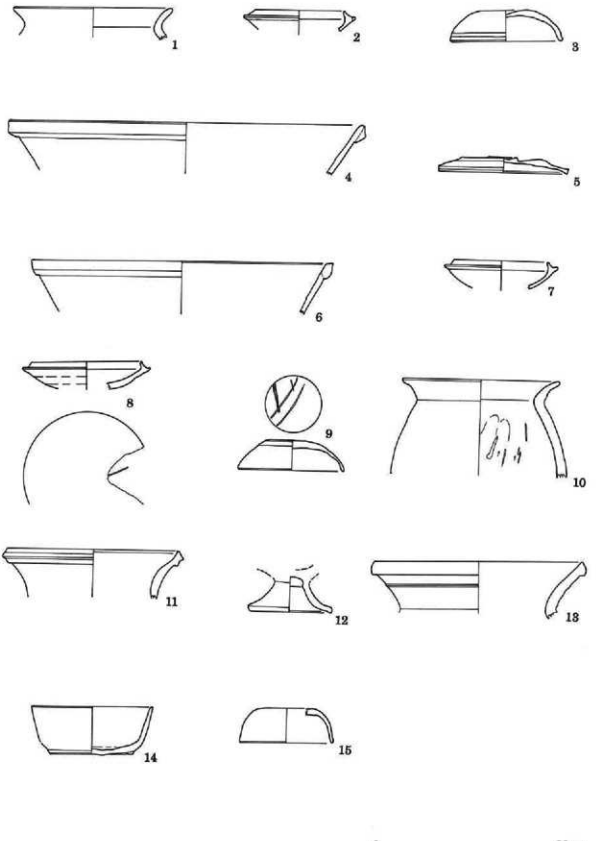


Fig.49　西前牟田遺跡4区　遺物実測図

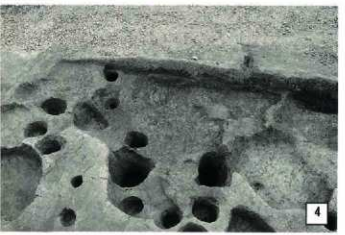
1　西前牟田遺跡　調査区遠景　―北東より―

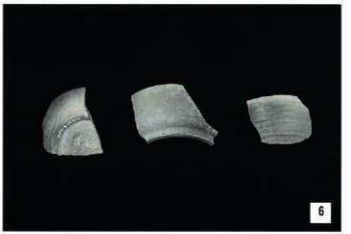
2　西前牟田遺跡　調査区近景　―北より―

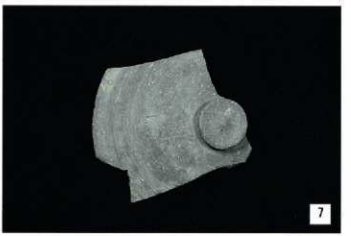
1　西前牟田遺跡3区　調査区全景　―南より―

2　西前牟田遺跡4区　調査区全景　―南より―

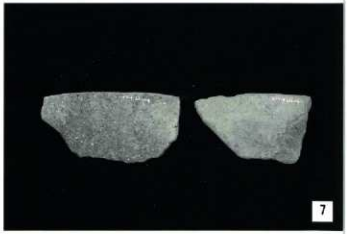
1 SK-301 —東より—
2 SK-302 —北より—
3 SK-303 —西より—
4 SK-304 —東より—
5 SK-306 —南西より—
6 SK-307 —南より—
7 SD-308 —東より—
8 SD-309・SD-310 —東より—





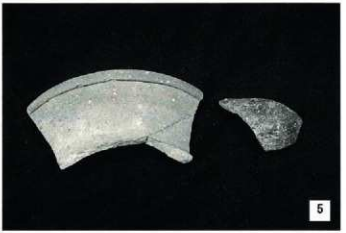


1　SH-401·SD-402·SD-403　—西より—
2　SK-404　—北西より—
3　SK-405·SK-406　—西より—
4　SK-407·SK-409　—西より—
5　SK-408·SK-410　—西より—
6　左 1　SK-301 出土·中右 2·3　SK-302 出土
7　4　SK-302 出土
8　5　SK-302 出土



1　6　SK-302 出土
2　7　SK-305 出土
3　8　SK-307 出土
4　左 1・右 2　SH-401 出土
5　3　SD-402 出土
6　左 4・右 6　SK-404 出土
7　同上
8　5　SK-405 出土

PL. 44



1　7　SK-405 出土
2　8　SK-405 出土
3　9　SK-406 出土

4　左 10·右上 11·右下 12　SK-406 出土
5　左 13·右 15　SK-410 出土
6　14　SK-410 出土

VI. 平成24年度の調査

Tab.7 平成24年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所五本谷遺跡	上峰町大字坊所字五本谷1992番地	個人	個人専用住宅建設工事	330	36	平成24年5月19日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
2	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰2823番地1	個人	個人専用住宅建設工事	398	40	平成24年5月11日	縄文時代の土壙1基・ピットなどが検出されたが、遺物は出土しなかった。	工事実施。	検出された遺構については、基礎工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
3	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰2806番地1	個人	建売住宅建設工事	477	28	平成24年5月11日	奈良時代の土壙1基・ピットなどが検出され、土壙覆土中に土師器片が散見された。	工事未実施。	検出された遺構については、基礎工事の影響が及ばないような工法の検討を要請。
4	四割八坂遺跡	上峰町大字前牟田字五本杉1546番地1, 1546番地3, 1547番地1, 1547番地5, 1548番地1, 1548番地3, 1548番地4, 1549番地1, 1549番地6	佐賀県農業協同組合	分譲宅地造成工事	5,122	250	平成24年5月16日 平成24年5月17日 平成24年5月18日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未実施。	
5	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字西峰2768番地1	㈱シティ開発	分譲宅地造成工事	976	50	平成24年8月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
6	坊所三本松遺跡	上峰町大字坊所字西峰2845番地1	ソフトバンクモバイル㈱	通信施設建設工事	87	8	平成24年8月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
7	米多城跡	上峰町大字前牟田字一本榎1293番地3の一部	個人	個人専用住宅建設工事	291	14	平成24年8月31日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
8	周知外 寺家一地区	上峰町大字前牟田字一本榎1353番地1, 1354番地1, 1357番地	個人	駐車場建設工事	791	72	平成24年11月9日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
9	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字西峰3016番地2	個人	個人専用住宅建設工事	166	10	平成24年10月19日	ピット状の遺構が検出されたが、遺物は出土しなかった。	工事実施。	検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。
10	周知外 屋形原地区	上峰町大字堤字二本松3131番地4	スパークス・グリーンエナジー&テクノロジー㈱	太陽光発電施設建設工事	29,374	495	平成24年11月16日 平成24年11月19日 平成24年11月20日 平成24年11月21日 平成24年11月22日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手。	開発主体者が重機提供。

11	一本谷遺跡	上峰町大字坊所字一本谷2552番地57，2552番地92，2552番地122	個人	集合住宅建設工事	1,332	79	平成24年11月30日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
12	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字西峰2767番地1	(有)シティ開発	分譲宅地造成工事	976	50	平成25年1月18日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
13	三上遺跡(6)	上峰町大字坊所字三上3206番地4	個人	個人専用住宅建設工事	335	16	平成25年1月18日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
14	船石遺跡	上峰町大字堤字四本杉841番地，842番地	個人	埋蔵文化財の有無の確認	941	120	平成25年1月31日	弥生時代の住居址1軒・ピット2基が検出され、住居址覆土中より弥生式土器片が出土した。	埋蔵文化財有り。	
15	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字西峰2758番地，2759番地1，上峰町大字坊所字杉寺1286番地1	個人	戸建賃貸住宅建設工事	1,343	80	平成25年2月22日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
16	周知外 江越地区	上峰町大字江迎字一本黒木305番地4，305番地5	個人	個人専用住宅建設工事	346	16	平成25年3月15日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
				合　計	43,285	1,364				

Fig.50　平成24年度　確認調査地位置図（1/50,000）

Ｈ２４－１

遺 跡 名：坊所五本谷遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：330㎡

調査面積：36㎡

調査時期：平成24年5月19日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、町中南部、上峰町大字坊所字五本谷に所在し、町中西部の郡境地区から現下津毛集落付近に延びる下津毛丘陵南部に立地する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は下津毛丘陵の南部標高8m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

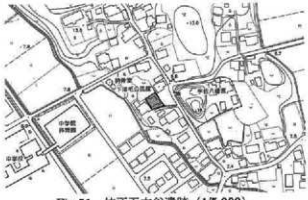


Fig.51　坊所五本谷遺跡（1/5,000）

PL.45　調査区遠景

H２４－２

遺 跡 名：三上遺跡(1)

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：398㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成24年5月11日

Fig.52　三上遺跡(1)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部、標高9m付近に位置しており、これまでは畑として利用されていた。

遺構と遺物：縄文時代と推測される土壙1基、ピットなどが検出されたが、遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。

PL.46　№2試掘溝　遺構検出状況

Ｈ２４－３

遺 跡 名：三上遺跡(2)

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：477㎡

調査面積：28㎡

調査時期：平成24年5月11日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部、標高9m付近に位置しており、これまでは畑として利用されていた。

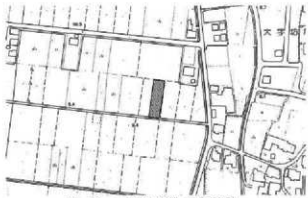


Fig.53　三上遺跡(2)（1/5,000）

遺構と遺物：奈良時代の土壙1基、ピットなどが検出された。土壙の覆土中に土師器片が散見された。

調査後措置：検出された遺構の盛土保存について造成計画等の変更を要請したが、事業中止。

PL.47　№2試掘溝　遺構検出状況

H２４－４

遺 跡 名：四割八坂遺跡

調 査 地：上峰町大字前牟田字五本杉

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：5,122㎡

調査面積：250㎡

調査時期：平成24年5月16日～18日

Fig.54　四割八坂遺跡（1/5,000）

立地と環境：四割八坂遺跡は、町南西部の上峰町大字前牟田字五本杉・四割八坂に所在し、本町三上地区から大字前牟田下米多集落付近へ延びる目達原丘陵上南端部の微高地西斜面に位置する弥生時代の集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵無端部の微高地西斜面、標高7m付近に位置しており、これまでは水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.48　調査区全景

Ｈ２４－５

遺 跡 名：三上遺跡(3)

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：976㎡

調査面積：50㎡

調査時期：平成24年8月8日

Fig.55　三上遺跡(3)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部、標高11m付近に位置しており、これまでは畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.49　作業状況

H２４－６

遺 跡 名：坊所三本松遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：通信施設建設工事

工事面積：87㎡

調査面積：8㎡

調査時期：平成24年8月8日

立地と環境：坊所三本松遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字三本松・西峰に所在し、現下坊所集落が立地する坊所丘陵南部及び西方の目達原丘陵東辺部に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、三上地区南部の目達原丘陵東辺部、標高9m付近に位置しており、これまで雑種地であった。

Fig.56　坊所三本松遺跡（1/5,000）

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.50　No.1試掘溝

Ｈ２４－７

遺 跡 名：米多城跡

調 査 地：上峰町大字前牟田字一本桜

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：291㎡

調査面積：14㎡

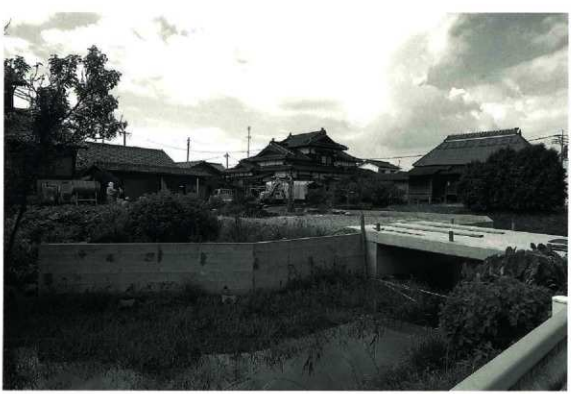
調査時期：平成24年8月31日

立地と環境：米多城跡は、町南西部、上峰町大字前牟田字七反田・屋敷の坪、姥井鶴・一本桜一帯に所在し、大字前牟田地区に延びる目達原丘陵南端部が沖積地に没する付近一帯を占有する中世城館跡である。調査対象地区は下米多地区の沖積地標高4m付近に位置しており、これまでは、宅地内の畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

Fig.57　米多城跡（1/5,000）



PL.51　作業状況

H２４－８

遺 跡 名：周知外　寺家一地区

調 査 地：上峰町大字前牟田字一本桜

工事内容：駐車場造成工事

工事面積：791㎡

調査面積：72㎡

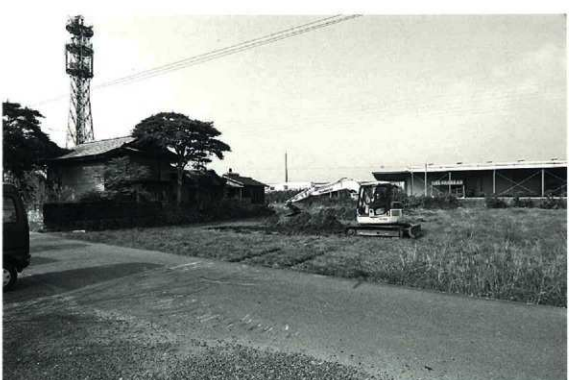
調査時期：平成24年11月9日

立地と環境：調査対象地区は、町南西部の大字前牟田寺家一集落の西部に所在し、目達原丘陵南端の微高地が西側を南流する井柳川の氾濫原へと移行する部分、標高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

Fig.58　周知外　寺家一地区（1/5,000）



PL.52　調査区全景

H24－9

遺 跡 名：三上遺跡(4)

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：166㎡

調査面積：10㎡

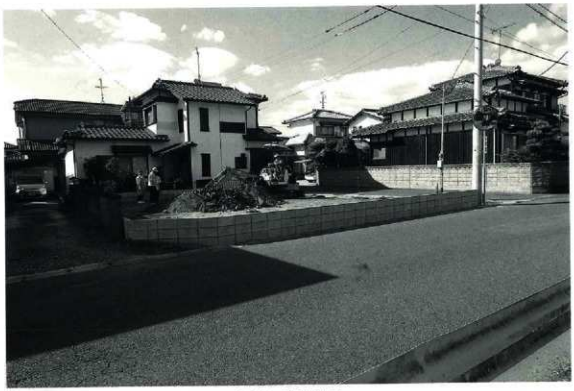
調査時期：平成24年10月19日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高14m付近に位置しており、以前より宅地として利用されており、近年更地となっていた。

Fig.59 三上遺跡(4)（1/5,000）

遺構と遺物：ピット状の遺構が検出されたが、遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



PL.53 調査区全景

H24-10

遺 跡 名：周知外　屋形原地区

調 査 地：上峰町大字堤字二本松

工事内容：太陽光発電施設設置工事

工事面積：29,374㎡

調査面積：495㎡

調査時期：平成24年10月16日・19日～22日

立地と環境：調査対象地区は、町北部の上峰町大字堤字二本松に所在し、東脊振村から本町屋形原地区へ延びる屋形原丘陵の基部、標高33m付近に位置しており、これまで工場内の緑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

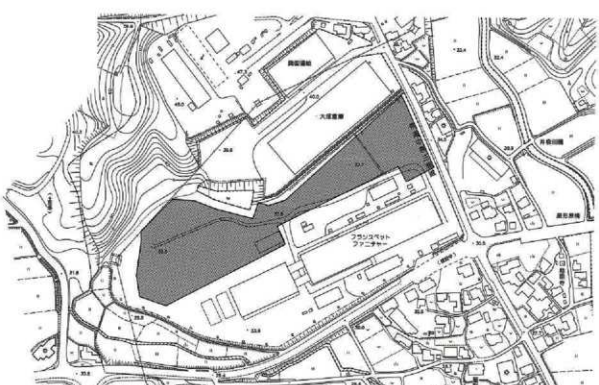
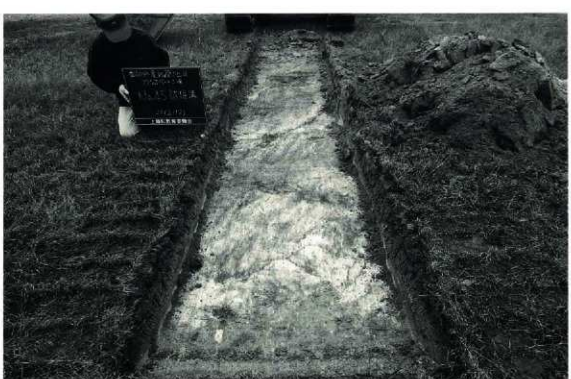


Fig.60　周知外　屋形原地区（1/5,000）

PL.54　調査区全景



PL.55　No.45試掘溝

H２４－１１

遺 跡 名：一本谷遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：集合住宅建設工事

工事面積：1,332㎡

調査面積：79㎡

調査時期：平成24年11月30日

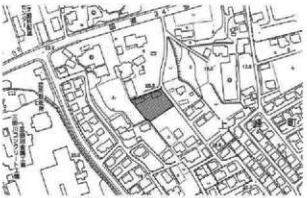


Fig.61　一本谷遺跡（1/5,000）

立地と環境：一本谷遺跡は、町中央部の井手口地区、上峰町坊所字一本谷に所在する縄文時代から古墳時代にかけての集落・墳墓遺跡で、町北部の大字堤地区の二塚山丘陵から国道34号線以南に派生する井手口丘陵上に立地している。調査対象地区は、井手口丘陵の標高25m付近に位置しており、以前より宅地として利用され、近年更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.56　調査区全景

H24－12

遺 跡 名：三上遺跡(5)

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：976㎡

調査面積：50㎡

調査時期：平成25年1月18日

Fig.62　三上遺跡(5)（1/5,000）

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部、標高11m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.57　No.1試掘溝

H24－13

遺 跡 名：三上遺跡(6)

調 査 地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：335㎡

調査面積：16㎡

調査時期：平成25年1月18日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、本町三上地区から三田川町立野地区に跨る目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。三上遺跡が立地する目達原丘陵は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変革されている。調査対象地区は、目達原丘陵の中北部、標高15m付近に位置しており、既に宅地として造成されており、更地となっていた。

Fig.63　三上遺跡(6)（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

PL.58　調査区遠景

H24－14

遺 跡 名：船石遺跡

調 査 地：上峰町大字堤字四本杉

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：941㎡

調査面積：120㎡

調査時期：平成25年1月31日

Fig.64　船石遺跡（1/5,000）

立地と環境：船石遺跡は、町北部の上峰町大字堤字三本杉・四本杉・一本谷・二本谷に所在し、現船石集落が立地する船石丘陵一帯に広がる調文時代から中世に及ぶ集落・墳墓遺跡である。調査対象地区は、この船石丘陵の上位段丘南端部、標高20m付近に位置している。これまでは畑として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代の住居址1軒、ピットなどが検出された。住居址覆土中より弥生式土器片が出土した。

調査後措置：原状のまま、畑として耕作。

PL.59　No.1試掘溝　遺構検出状況

H24－15

遺 跡 名：杉寺遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰・杉寺

工事内容：戸建賃貸借住宅建設工事

工事面積：1,343㎡

調査面積：80㎡

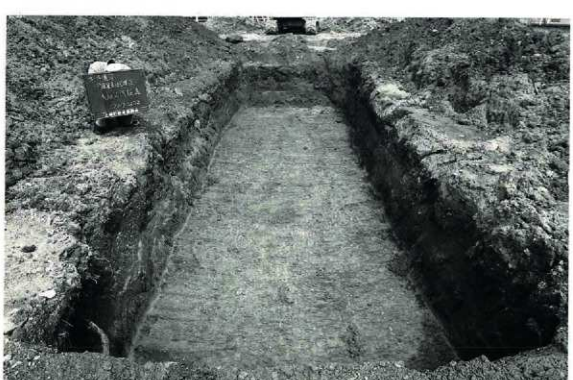
調査時期：平成25年2月22日

立地と環境：杉寺遺跡は、上峰町大字坊所字杉寺・西峰に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、町中南部の現上坊所・下坊所の集落が立地する坊所丘陵の西辺部から三上地区に広がる目達原丘陵東辺部に跨って位置している。調査対象地区は、杉寺遺跡のうち目達原丘陵側の丘陵斜面、標高11m付近に位置しており、これまで一部は鶏舎として、その他の部分は畑として利用されていた。

Fig.65　杉寺遺跡（1/5,000）

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL.60　№2試掘溝

H２４－１６

遺 跡 名：周知外　江越地区

調 査 地：上峰町大字江迎字一本黒木

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：346㎡

調査面積：16㎡

調査時期：平成25年3月15日

立地と環境：調査対象地区は町南部の上峰町大字江迎字委本黒木に所在し、町南部の沖積地、標高5m付近に位置しており、以前より宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

Fig.66　周知外　江越地区（1/5,000）

PL.61　調査区遠景

Fig.67　平成24年度　本調査地位置図（1/50,000）

三上遺跡7区発掘調査（Fig.67～70・PL.62，63）

遺 跡 名：三上遺跡7区
調 査 地：上峰町大字坊所字三上3169番地9
調査原因：個人専用住宅建設工事
調査面積：100㎡
調査時期：平成24年10月24日～11月2日

三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高8m～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

今回の調査対象地区を含む一帯は、平成18年度に三上遺跡内における分譲宅地造成工事に伴い町内遺跡確認調査を実施し、柱穴、溝跡などが検出され、分譲地内の宅地部分については盛土保存し、道路部分250㎡について本調査を実施した区域の一区画にあたる。

10月24日～11月2日まで、住宅基礎工事の影響が及ぶ範囲約100㎡について記録保存を目的とした本調査を実施した。

その結果、奈良時代の建物跡1棟、溝跡2条、土壙2基のほかピットが多数検出され、それらの遺構から土師器片・須恵器片・中世土器片などがコンテナボックス1/4箱分出土した。

今回の調査の結果、この一帯には奈良・平安時代の建物群を主体とする遺構がかなりの密度で良好な状況で依存していることが改めて確認され、遺跡の時代的な変遷を考える上で貴重な資料を得ることができた。

遺 構（Fig.69，70・PL.62，63）

掘立柱建物址（Fig.69，70・PL.62）

SB-701は、奈良時代の所産と推測される掘立柱建物址。平面形態は1間×1間、桁行2.8m×梁行2.7mほぼ正方

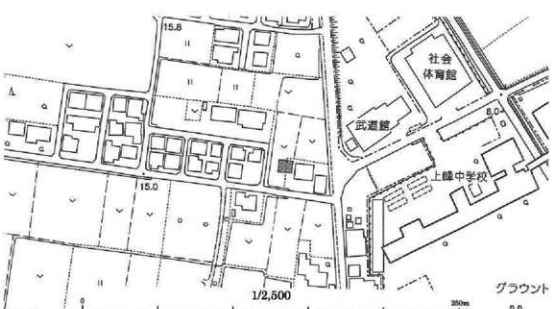


Fig.68　三上遺跡7区　調査区位置図（1/2,500）

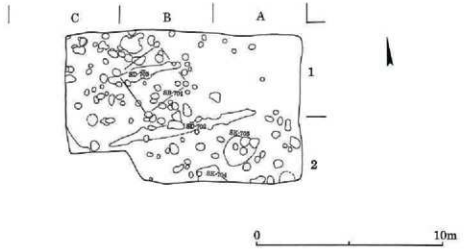


Fig.69　三上遺跡7区　遺構配置図（1/200）

形を呈す。柱穴は、深さ50cm前後、円形の掘り方。主軸はN－30°－W。

土壙（Fig.69，70）

SK-704・SK-705の2基を調査した。時期を決定できるような遺物は出土していないもののともには奈良時代の所産になるものと推測される。

Tab.8　三上遺跡7区　出土土壙等一覧表

遺構番号	平面形態	規模（上段…上面・下段…底面）単位：m・㎡				出土遺物	備考
		長さ・長径	幅・短径	深さ	底面積		
SK-704	不整方形	※0.74 ※0.85	(1.5) (1.4)	0.05	※0.7		
SK-705	不整円形	1.95 1.80	1.54 1.30	0.08	1.6		

溝跡（Fig.69，70・PL.63）

SD-702・SD-703の2条を調査した。SD-702は延長約8m、SD-703が約4mがそれぞれ検出された。2条の溝が4m強の間隔でほぼ東西方向に並行して走っており、道路側溝など対になる遺構の可能性も高い。

遺　物

各ピットなどから土師器・須恵器の小片、中世土器小片などが出土しているが、図示できるもの出土していない。

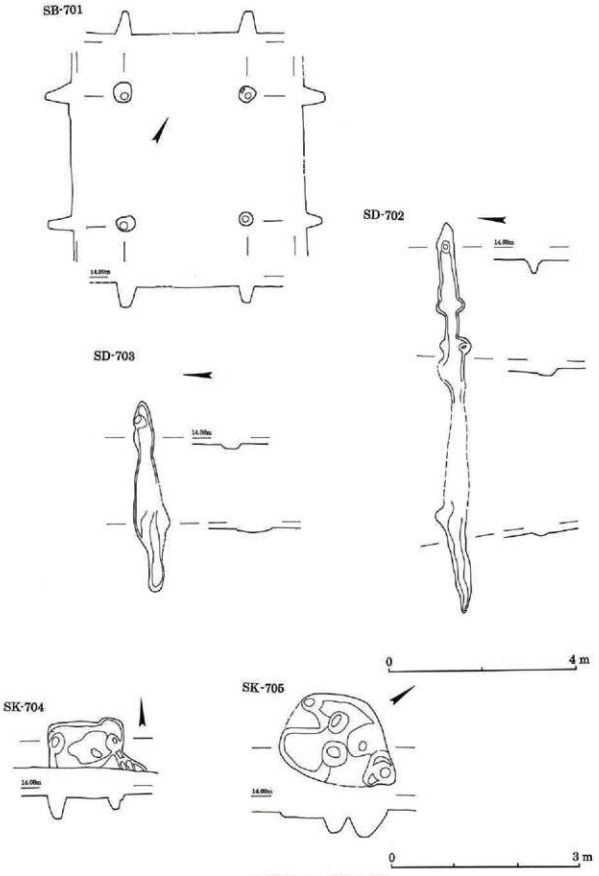
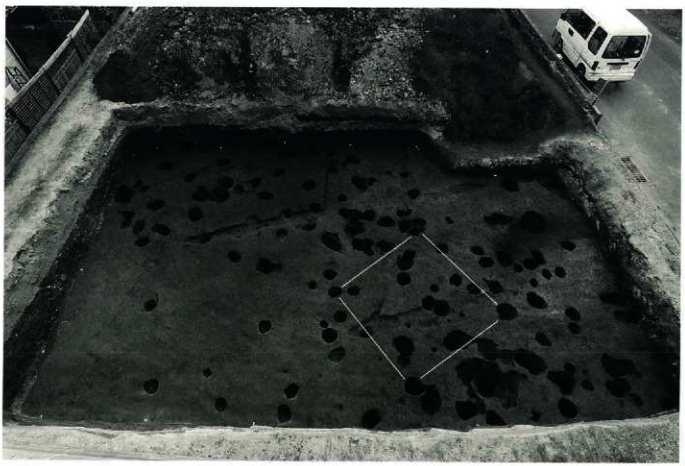


Fig.70　三上遺跡7区　遺構実測図

1　三上遺跡7区　調査区全景　遺構検出状態　―南より―



2　三上遺跡7区　調査区全景　―北より―

1　三上遺跡7区　SD-702　—西より—

2　三上遺跡7区　SD-703　—西より—

報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさV
書名	上峰町内遺跡確認調査V
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ――平成21年度～平成24年度――
巻次	
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書
シリーズ番号	第37集
編著者名	原田　大介
編集機関	上峰町教育委員会
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4　上峰町民センター内　Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888
発行年月日	2014年3月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
まちないいせき 町内遺跡	さがけんみやきぐん 佐賀県三養基郡 かみみねまち 上峰町一円	41345				2009. 4. ～ 2013. 3		町内における各種開発行為

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町内遺跡	集落跡 墳墓跡 城館跡	弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世 近世	竪穴式住居跡 掘立柱建物跡 溝跡・土壙	弥生式土器 土師器・須恵器 中世土器・陶磁器 近世陶磁器・銅製品	

上峰町文化財調査報告書第37集

上峰町内遺跡確認調査V

平成26年 3月12日 印　刷
平成26年 3月28日 発　行

編集
発行　上峰町教育委員会
佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印　刷　大同印刷株式会社
佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20